人 口 動 態 総 覧

佐賀県

	実数			率				全国順位	R1年平均発生間隔
	令和元年	平成30年	増 減	令和元年	平成30年	増 減	全国R1年		時 分 秒
出 生	6 231	6 535	△ 304	7.7	8.0	△ 0.3	7.0	4	1 24 21
（男）	(3 234)	(3 336)	(△ 102)	(8.4)	(8.7)	△ 0.3	(7.4)	3	2 42 31
（女）	(2 997)	(3 199)	(△ 202)	(7.1)	(7.5)	△ 0.4	(6.6)	7	2 55 23
死 亡	9 967	10 112	△ 145	12.3	12.4	△ 0.1	11.2	25	0 52 44
（男）	(4 784)	(4 882)	(△ 98)	(12.5)	(12.7)	△ 0.2	(11.7)	28	1 49 52
（女）	(5 183)	(5 230)	(△ 47)	(12.2)	(12.2)	0.0	(10.6)	23	1 41 25
乳 児 死 亡	15	6	9	2.4	0.9	1.5	1.9	9	584 0 0
新生児死亡	6	0	6	1.0	0.0	1.0	0.9	19	1460 0 0
自 然 増 減	△ 3 736	△ 3 577	△ 159	△ 4.6	△ 4.4	△ 0.2	△ 4.2	16	
死 産	125	142	△ 17	19.7	21.3	△ 1.6	22.0	38	70 4 48
自 然 死 産	69	62	7	10.9	9.3	1.6	10.2	16	126 57 23
人 工 死 産	56	80	△ 24	8.8	12.0	△ 3.2	11.8	43	156 25 43
周 産 期 死 亡	21	12	9	3.4	1.8	1.6	3.4	27	417 8 34
妊娠満22週以後の死産	18	12	6	2.9	1.8	1.1	2.7	17	486 40 0
早期新生児死亡	3	0	3	0.5	0.0	0.5	0.7		2920 0 0
婚 姻	3 394	3 449	△ 55	4.2	4.2	0.0	4.8	33	2 34 52
離 婚	1 329	1 280	49	1.64	1.57	0.07	1.69	23	6 35 29
合計特殊出生率	…	…	…	1.64	1.64	0.00	1.36	5	…
生活習慣病死亡 悪性新生物	2 721	2 767	△ 46	336.8	340.3	△ 3.6	304.2	18	
生活習慣病死亡 心 疾 患	1 394	1 371	23	172.5	168.6	3.9	167.9	36	
生活習慣病死亡 脳血管疾患	771	855	△ 84	95.4	105.2	△ 9.7	86.1	26	

注：1） 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対、生活習慣病死亡率は人口１０万対である。

2） 合計特殊出生率とは、「15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

3） 全国順位は高率順位である。

4） （ ）はそれぞれ、出生と死亡の内数。

第１章　出　　生

１　出生の動き

令和元年の本県の出生数は 6,231 人で 1 時間 24 分 21 秒に 1 人の割合で生まれたことになり、前年より 304 人減少し、出生率（人口千対）は 7.7 で前年の 8.0 を下回った。

本県の出生率は戦後急激に上昇したが、昭和 24 年のベビーブームをピークにその後次第に低下した。37 年以降は 41 年の「ひのえうま」を除いてほぼ横ばいであったが、50 年以降徐々に低下し、平成 15 年からは戦後初めて自然増がマイナスに転じた。

出生率を全国と比較すると、図 1 のように昭和 37 年頃から全国より低率で推移していたが、54 年からは再び高率となり令和元年は全国 4 位であった。

図１　出生数及び出生率の年次推移

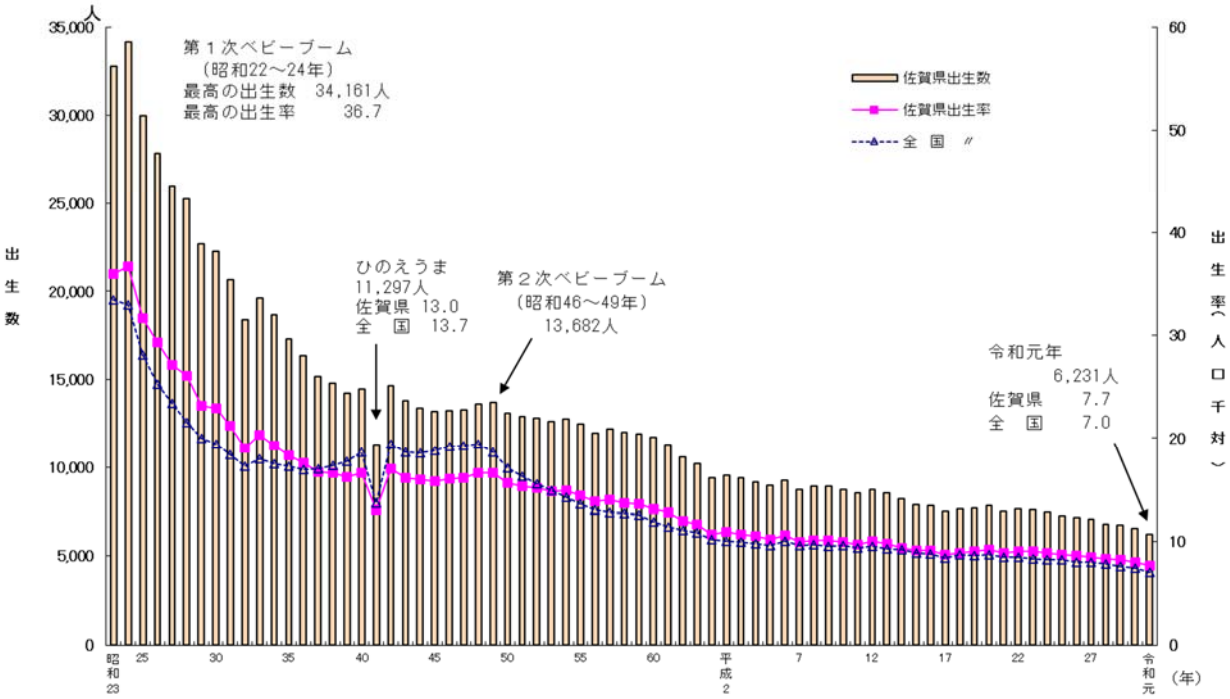


表１　出生率・合計特殊出生率・総再生産率の年次推移

年次	出生率		合計特殊出生率		総再生産率	
	佐賀県	全　国	佐賀県	全　国	佐賀県	全　国
昭和 25	31.7	28.1	…	3.65	…	1.77
30	22.9	19.4	…	2.37	1.45	1.15
35	18.3	17.2	2.35	2.00	1.14	0.97
40	16.6	18.6	2.28	2.14	1.11	1.04
45	15.8	18.8	2.13	2.13	1.01	1.03
50	15.6	17.1	2.03	1.91	0.97	0.93
55	14.4	13.6	1.93	1.75	0.93	0.85
60	13.1	11.9	1.95	1.76	0.94	0.86
平成 2	10.9	10.0	1.75	1.54	0.84	0.75
7	9.9	9.6	1.64	1.42	0.80	0.69
12	10.0	9.5	1.67	1.36	0.80	0.66
17	8.7	8.4	1.48	1.26	0.73	0.62
22	9.0	8.5	1.61	1.39	0.79	0.67
25	8.7	8.2	1.59	1.43	0.81	0.70
26	8.6	8.0	1.63	1.42	0.82	0.69
27	8.5	8.0	1.64	1.45	0.79	0.71
28	8.3	7.8	1.63	1.44	0.80	0.70
29	8.2	7.6	1.64	1.43	0.80	0.69
30	8.0	7.4	1.64	1.42	0.81	0.69
令和 元	**7.7**	**7.0**	**1.64**	**1.36**	**0.79**	**0.66**

2　合計特殊出生率

これからの人口の動向をみるものとして重要な合計特殊出生率（P7 注:2）の令和元年は、1.64 で前年の 1.64 と同値であった。昭和 50 年までは 2.0 台で推移していたが、以後ほぼ低下し続け、平成 17 年の 1.48 は全国 7 位とはいえ過去最低を記録した。その後、わずかながら上昇に転じ、平成 22 年以降ほぼ横ばいで推移している。

令和元年の母の年齢(5 歳階級)別出生率をみると、25～29 歳、30～34 歳の階級では上昇し、その他の階級では低下した。

図２　合計特殊出生率と母の年齢（5歳階級）別出生率の年次推移　（佐賀県）

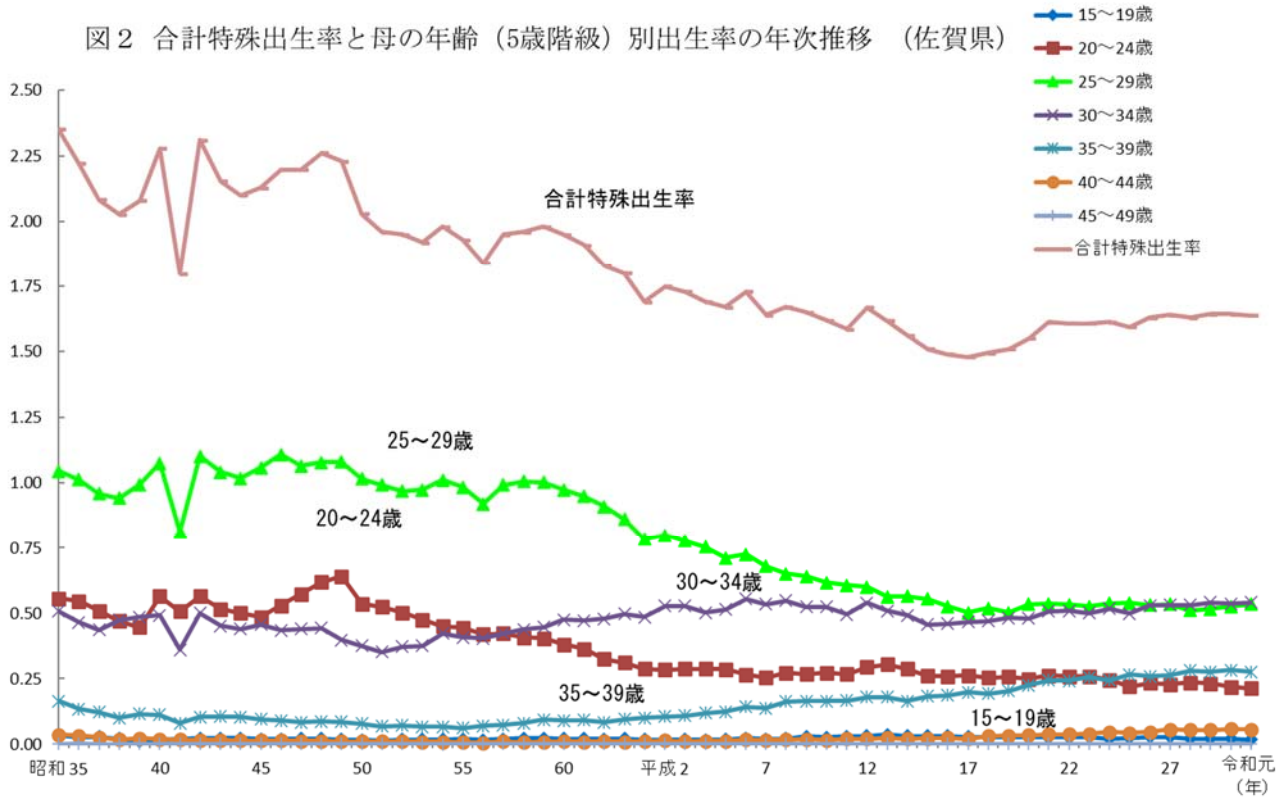


表２　合計特殊出生率と母の年齢（5歳階級）別出生率の年次推移

佐賀県

母の年齢	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和元年
合　計	2.35	2.28	2.13	2.03	1.93	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.64	1.63	1.64	1.64	**1.64**
歳																
15～19	0.0352	0.0156	0.0202	0.0160	0.0190	0.0204	0.0163	0.0192	0.0317	0.0273	0.0261	0.0282	0.0219	0.0214	0.0218	**0.0173**
20～24	0.5565	0.5652	0.4848	0.5363	0.4443	0.3813	0.2850	0.2544	0.2949	0.2619	0.2621	0.2285	0.2353	0.2321	0.2185	**0.2141**
25～29	1.0465	1.0753	1.0584	1.0162	0.9856	0.9743	0.7990	0.6801	0.5994	0.5016	0.5360	0.5337	0.5103	0.5156	0.5250	**0.5344**
30～34	0.5067	0.4923	0.4565	0.3763	0.4079	0.4750	0.5272	0.5336	0.5396	0.4668	0.5069	0.5302	0.5309	0.5418	0.5362	**0.5408**
35～39	0.1653	0.1126	0.0962	0.0779	0.0625	0.0910	0.1061	0.1385	0.1805	0.1987	0.2439	0.2641	0.2804	0.2767	0.2823	**0.2752**
40～44	0.0365	0.0197	0.0143	0.0116	0.0074	0.0108	0.0143	0.0167	0.0214	0.0212	0.0378	0.0571	0.0550	0.0543	0.0583	**0.0564**
45～49	0.0015	0.0008	0.0009	0.0006	0.0010	0.0007	0.0004	0.0007	0.0005	0.0005	0.0004	0.0014	0.0002	0.0006	0.0017	**0.0004**

表３　母の年齢階級別にみた出生数の年次推移

佐賀県

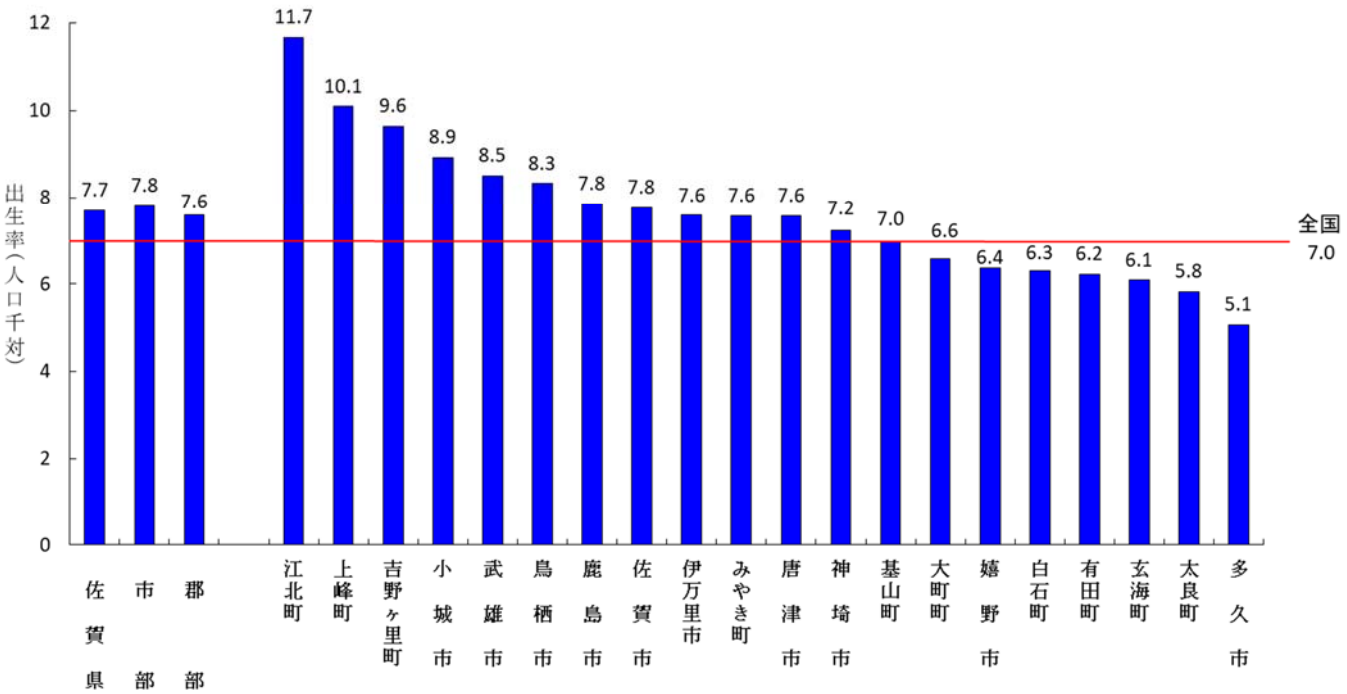
母の年齢（歳）	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	**令和元年**
合　計	17,294	14,443	13,187	13,085	12,466	11,705	9,555	8,729	8,745	7,508	7,640	7,064	6,811	6,743	6,535	**6,231**
～19	296	147	170	109	119	123	105	119	180	133	111	117	92	90	87	**69**
20～24	4,341	3,730	3,692	3,647	2,630	2,087	1,470	1,422	1,529	1,226	1,037	807	800	789	743	**728**
25～29	7,744	6,452	6,007	6,707	6,578	5,691	4,214	3,490	3,248	2,540	2,449	2,083	1,939	1,856	1,785	**1,710**
30～34	3,648	3,249	2,615	2,107	2,738	3,123	2,972	2,787	2,718	2,494	2,542	2,409	2,336	2,384	2,252	**2,163**
35～39	1,058	743	609	436	353	616	696	795	944	1,001	1,308	1,333	1,346	1,328	1,355	**1,266**
40～44	197	118	89	74	42	61	96	111	123	111	191	308	297	293	303	**293**
45～49	8	4	5	4	6	4	2	5	3	3	2	7	1	3	9	**2**
50～	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	**-**
不詳	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	**-**

３　地域別にみた出生

地域別の出生状況は図３のとおりで、出生率は概ね市部が郡部より高くなっている。

令和元年の地域別の出生率をみると、江北町が出生率 11.7 で第１位となった。平成 30 年と比較して最も率の増減が大きかった市町は、4.9 から 6.6 へ上昇した大町町、6.8 から 5.1 へ下降した多久市である。

図３　地域別出生率　令和元年　（佐賀県）



4　出生順位

出生順位別出生割合の年次推移を図４でみると、昭和 35 年には第３子以上が全体の 35.3%を占め、続いて第１子 35.1%、第２子 29.6%であったが、その後第３子以上の割合が急激に減少し、50 年には第１子 41.2%、第２子 37.6%、第３子以上 21.2%となった。

昭和 55 年から平成 2 年までは第１子はほぼ横ばい、第２子は減少、第３子以上は増加傾向にあったが、その後、第１子は増加、第２子は横ばい、第３子以上は減少傾向となった。平成 14 年の 44.6%をピークに出生数に占める第１子の割合は低下傾向となり、令和元年は第１子 40.3%、第２子 35.7%、第３子以上 23.9%となった。

図4　出生順位別出生割合の年次推移（佐賀県）

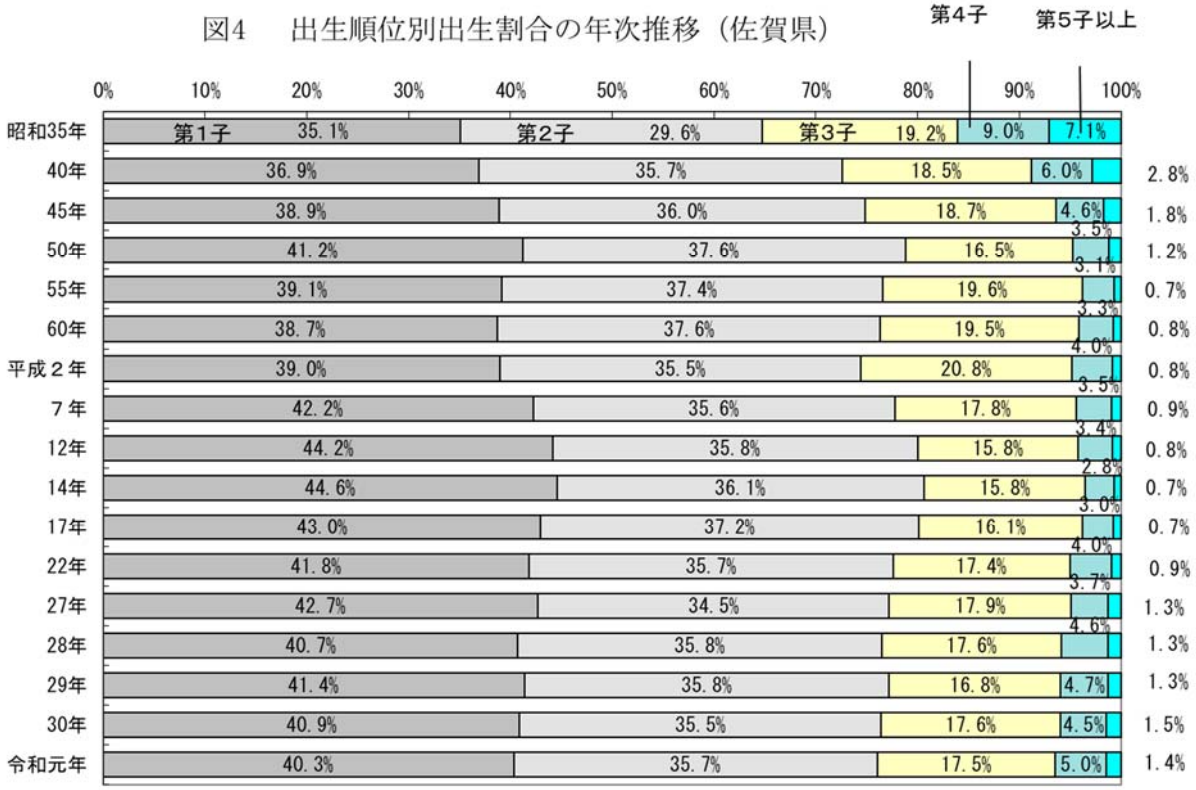


表４　　出生順位別にみた出生数の年次推移

佐賀県

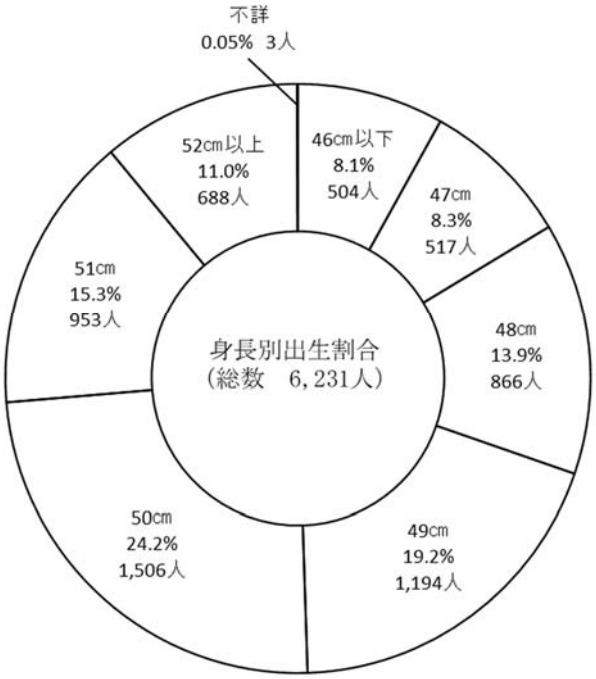
45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	**令和元年**
13 187	13 085	12 466	11 705	9 555	8 729	8 745	7 508	7 640	7 064	6 811	6 743	6 535	**6 231**
5 129	5 391	4 878	4 531	3 722	3 686	3 862	3 225	3 196	3 018	2 773	2 790	2 673	**2 513**
4 745	4 918	4 665	4 406	3 389	3 107	3 134	2 793	2 731	2 436	2 437	2 415	2 322	**2 224**
2 469	2 153	2 448	2 282	1 983	1 552	1 380	1 207	1 333	1 261	1 198	1 136	1 150	**1 091**
613	464	388	392	382	304	296	227	309	259	314	315	295	**313**
231	159	87	94	79	80	73	56	71	90	89	87	95	**90**

5　出生時の子の身長

令和元年の出生時の平均身長は 49.2 ㎝で、男 49.5 ㎝、女 49.0 ㎝となっている。

また、身長別出生割合は図 5 のとおりで、50 ㎝が 24.2%で最も多く、続いて 49 ㎝は 19.2% 51 ㎝が 15.3%となっている。

図５　身長別出生割合　令和元年（佐賀県）



6　出生時の子の体重

令和元年の出生時の平均体重は 3.02 kgで、男 3.06 kg、女 2.97 kgとなっている。

また、2,500ｇ未満の低体重児の出生割合の年次推移を表 5 でみると、昭和 45 年の 6.9%から減少していたが、昭和 60 年以降増加傾向に転じ、その後概ね 9%前後で推移し、令和元年は、9.3%となっている。

令和元年における低体重児の性別出生割合は男 8.5%、女 10.1%で、各年を通じて女の割合が高くなっている。

令和元年の体重別出生割合は図 6 のとおりで、3.0 kg以上 3.5 kg未満が全体の 41.0%を占め、この前後の 2.5 kg以上 3.0 kg未満、3.5 kg以上 4.0 kg未満を合わせると 89.7%になる。

図６　体重別出生割合　令和元年（佐賀県）

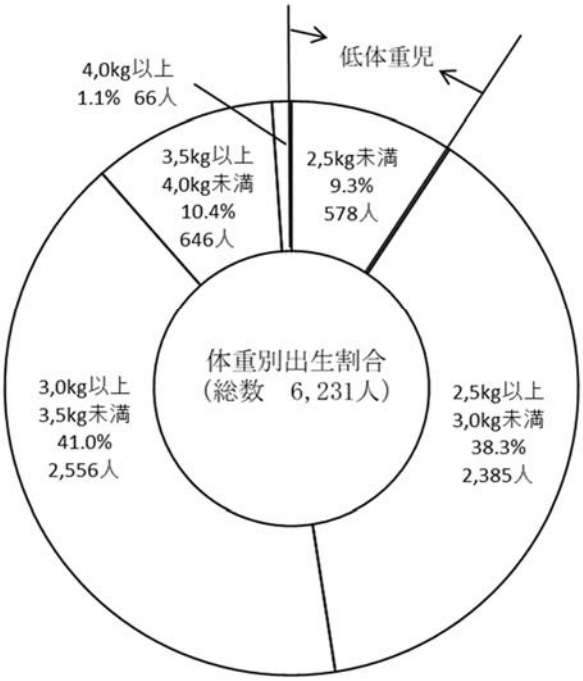


表５　平均体重・低体重児の数と割合の年次推移

佐賀県

年次	平均体重		総数			男			女		
	男 kg	女 kg	全出生数 a	2,500g 未満 出生数 b	割合 b/a×100 %	全出生数	2,500g 未満 出生数	割合 %	全出生数	2,500g 未満 出生数	割合 %
昭和 45 年	3.19	3.10	13 187	908	6.9	6 920	454	6.6	6 267	454	7.2
50	3.21	3.15	13 085	739	5.6	6 805	384	5.6	6 280	355	5.7
55	3.21	3.14	12 466	680	5.5	6 455	323	5.0	6 011	357	5.9
60	3.18	3.11	11 705	715	6.1	6 032	349	5.8	5 673	366	6.5
平成 2	3.15	3.07	9 555	642	6.7	4 970	305	6.1	4 585	337	7.4
7	3.12	3.03	8 729	664	7.6	4 473	327	7.3	4 256	337	7.9
12	3.10	3.01	8 745	750	8.6	4 578	348	7.6	4 167	402	9.6
17	3.05	2.97	7 508	718	9.6	3 783	311	8.2	3 725	407	10.9
22	3.04	2.96	7 640	749	9.8	3 943	351	8.9	3 697	398	10.8
23	3.05	2.98	7 613	693	9.1	3 890	323	8.3	3 723	370	9.9
24	3.06	2.97	7 440	676	9.1	3 817	302	7.9	3 623	374	10.3
25	3.06	2.97	7 276	707	9.7	3 690	328	8.9	3 586	379	10.6
26	3.04	2.96	7 159	675	9.4	3 667	312	8.5	3 492	363	10.4
27	3.06	2.98	7 064	645	9.1	3 662	308	8.4	3 402	337	9.9
28	3.06	2.97	6 811	638	9.4	3 495	302	8.6	3 316	336	10.1
29	3.05	2.96	6 743	657	9.7	3 513	303	8.6	3 230	354	11.0
30	3.07	2.98	6 535	582	8.9	3 336	264	7.9	3 199	318	9.9
令和 元	**3.06**	**2.97**	**6 231**	**578**	**9.3**	**3 234**	**276**	**8.5**	**2 997**	**302**	**10.1**

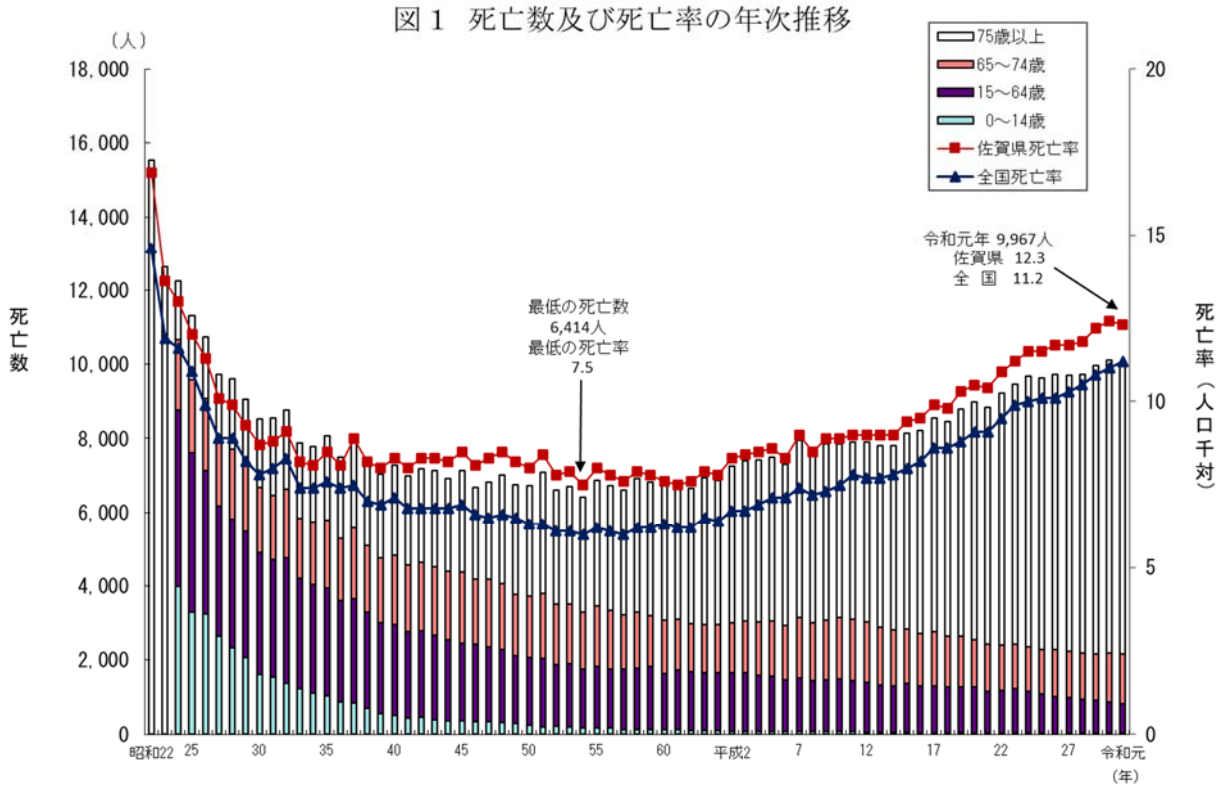
第２章　死　　亡

１　死亡の動き

令和元年の本県死亡者数は 9,967 人で、52 分 44 秒に 1 人の割合で亡くなったことになり、前年より 145 人減少し、人口千対死亡率は 12.3 で前年より 0.1 下回った。

本県の死亡率の年次推移は図 1 のとおりで、戦後は医薬の進歩、公衆衛生の発展によって、およそ 10 年間に死亡率が半減する低下傾向をみせたが、昭和 30 年代に入ってからは、おおむね横ばい状態となっていた。しかし近年は、人口の高齢化の進展に伴い、死亡率が上昇してきている。

図１　死亡数及び死亡率の年次推移



本県の死亡率を全国と比べると、各年次とも平均をかなり上回っているが、その主な原因は高齢人口の割合が高いことによる。

一般に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（昭和 60 年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるべきであるが、表 1 のとおり、基準人口に全国の人口を使用した本県の年齢調整死亡率は、いずれの年も粗死亡率を下回り、全国の死亡率に近い率になっている。

表１　粗死亡率・年齢調整死亡率の比較

年次	粗死亡率	年齢調整死亡率	全　国 粗死亡率
昭和　35　年	8.5	7.7	7.6
40	8.3	7.3	7.1
45	8.5	7.1	6.9
50	8.0	6.4	6.3
55	8.0	6.3	6.2
60	7.6	6.2	6.3
平成　2　年	8.3	6.8	6.7
7	9.0	7.5	7.4
12	9.0	7.7	7.7
17	9.9	8.5	8.6
22	10.9	9.4	9.5
27	11.7	10.2	10.3
28	11.8	10.4	10.5
29	12.2	10.8	10.8
30	12.4	11.1	11.0
令和　元　年	**12.3**	**11.0**	**11.2**

注）　基準人口は、各年日本人人口を使用した。

2　季節別にみた死亡

図２により死亡率の季節変動をみると、令和元年は１月～2月、12月の時期が高く、６月～７月、９月が低くなっている。

死因と季節の関係についてみると表２のとおりで、特に心疾患や肺炎などは冬期の死亡率が高くなっている。

図２　死亡率の季節変動（佐賀県）

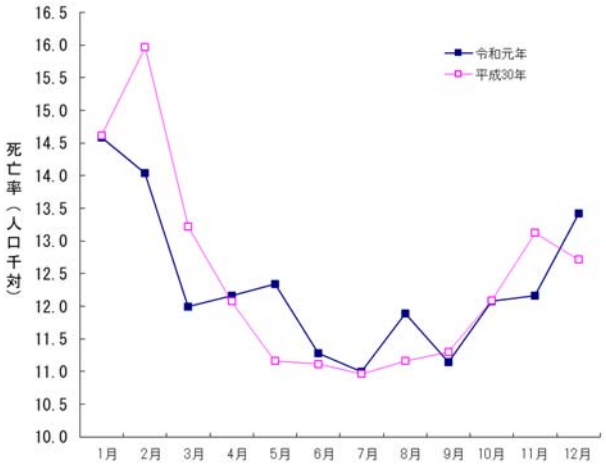


表２　主な死因別・月別死亡率（人口１０万対）

令和元年　佐賀県

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総　　数	1233.5	1458.7	1403.6	1199.3	1216.7	1234.3	1127.8	1100.2	1189.1	1114.3	1208.0	1216.7	1342.1
悪性新生物 ＜腫瘍＞	336.8	335.2	359.8	349.7	325.2	325.0	329.8	329.3	349.7	338.8	354.1	331.3	314.8
心疾患 （高血圧性を除く）	172.5	241.9	193.6	188.0	155.1	185.1	173.2	134.1	137.0	128.0	167.6	170.2	196.7
老　　衰	97.0	91.8	130.7	80.1	105.4	97.6	96.4	83.1	94.7	84.3	93.3	99.4	110.7
肺　　炎	96.4	132.6	111.3	99.1	111.4	87.4	87.3	77.2	103.5	90.3	86.0	79.8	91.8
脳血管疾患	95.4	123.9	103.3	94.7	81.3	94.7	72.3	109.3	81.6	87.3	90.3	100.9	104.9
誤嚥性肺炎	40.1	40.8	33.9	32.1	49.7	33.5	36.1	35.0	51.0	34.6	58.3	39.2	36.4
不慮の事故	35.4	46.6	46.8	23.3	40.7	32.1	30.1	24.8	26.2	34.6	33.5	36.1	51.0
腎　不　全	26.5	29.1	30.7	24.8	31.6	30.6	12.0	24.8	21.9	28.6	29.1	18.1	36.4
アルツハイマー病	23.8	18.9	22.6	24.8	31.6	23.3	18.1	24.8	18.9	25.6	11.7	39.2	26.2
慢性閉塞性肺疾患	17.6	26.2	16.1	17.5	13.6	18.9	24.1	8.7	17.5	30.1	7.3	18.1	13.1
自　　殺	17.5	17.5	22.6	17.5	12.0	30.6	27.1	11.7	24.8	12.0	10.2	15.1	8.7
間質性肺疾患	16.6	16.0	19.4	23.3	15.1	14.6	16.6	10.2	16.0	15.1	7.3	22.6	23.3
肝　疾　患	14.7	17.5	16.1	10.2	15.1	17.5	13.6	16.0	10.2	10.5	14.6	21.1	14.6
血管性及び 詳細不明の認知症	14.4	26.2	19.4	5.8	13.6	16.0	16.6	11.7	7.3	15.1	17.5	7.5	16.0
大動脈瘤及び解離	13.1	17.5	21.0	13.1	13.6	13.1	6.0	13.1	13.1	7.5	8.7	18.1	13.1
結　　核	2.6	1.5	1.6	1.5	3.0	2.9	0.0	0.0	4.4	1.5	4.4	7.5	2.9
（再掲） 交通事故	5.2	2.9	8.1	4.4	3.0	2.9	4.5	2.9	2.9	9.0	8.7	9.0	4.4

注：各月の率は年率に換算したものである。

$$\text{月別死亡率} = \frac{\text{月間の死因別死亡数} \times \dfrac{\text{年間の日数}}{\text{月間の日数}}}{\text{（日本人）人　口}} \times 100{,}000$$

3　地域別にみた死亡

死亡率を市町別にみたものが表3、図3である。

一般的に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（昭和60年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるが、これによると粗死亡率ほどには各地域間の高低は目立たない。

年齢調整死亡率を地域別に比較すると、市部では多久市、鹿島市が12.0で最高、嬉野市が9.7で最低となっている。郡部では玄海町が15.1と最高で、上峰町が9.6で最低となっている。

保健所別にみると唐津保健所が11.7で最高、鳥栖保健所が10.5で最低となっている。

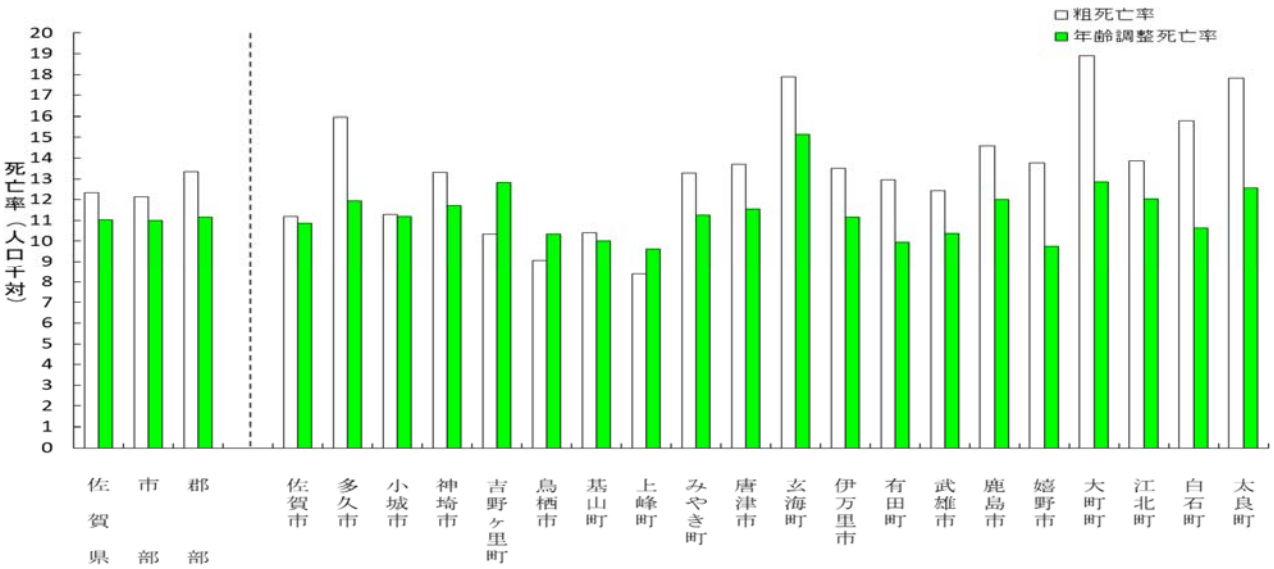
表３　粗死亡率・年齢調整死亡率－保健所・市町別（人口千対）

令和元年

保健所市郡別	粗死亡率	年齢調整死亡率	保健所市郡別	粗死亡率	年齢調整死亡率
佐賀県	12.3	11.0	唐津保健所	13.9	11.7
市部	12.1	11.0	唐津市	13.7	11.5
郡部	13.3	11.2	東松浦郡	17.9	15.1
			玄海町	17.9	15.1
佐賀中部保健所	11.6	11.1	伊万里保健所	13.4	10.8
佐賀市	11.2	10.9	伊万里市	13.5	11.2
多久市	16.0	12.0	西松浦郡	13.0	9.9
小城市	11.3	11.2	有田町	13.0	9.9
神埼市	13.3	11.7	杵藤保健所	14.2	10.9
神埼郡	10.3	12.8	武雄市	12.4	10.4
吉野ヶ里町	10.3	12.8	鹿島市	14.6	12.0
鳥栖保健所	10.1	10.5	嬉野市	13.8	9.7
鳥栖市	9.1	10.3	杵島郡	15.8	11.3
三養基郡	11.4	10.6	大町町	18.9	12.8
基山町	10.4	10.0	江北町	13.9	12.0
上峰町	8.4	9.6	白石町	15.8	10.6
みやき町	13.3	11.3	藤津郡	17.8	12.6
			太良町	17.8	12.6

注：基準人口は推計人口（日本人）を使用した。

図３　市町別粗死亡率・年齢調整死亡率　令和元年



4　年齢階級別にみた死亡

死亡率を年齢階級別にみると図 4、表 4 のとおりである。

出生後まもなくは環境に対する適応性が備わっていないため死亡率はやや高く、5～9 歳、10～14 歳、15～19 歳で低くなる。その後 59 歳ごろまでは緩やかに上昇し、以後は急速に上昇しているが、近年この年齢が次第に高くなっている。

年齢と死因については表 5 のとおりで、15～34 歳では、自殺が死因の第 1 位となっており、不慮の事故を含めた疾病以外の死因が大きな割合を占めている。

35～89 歳まで 1 位である「悪性新生物」は、若年層からも重視される死因となっている。

90 歳以上にあっては、「心疾患」が 1 位である。

図 4　年齢階級別死亡率の年次比較　　佐賀県

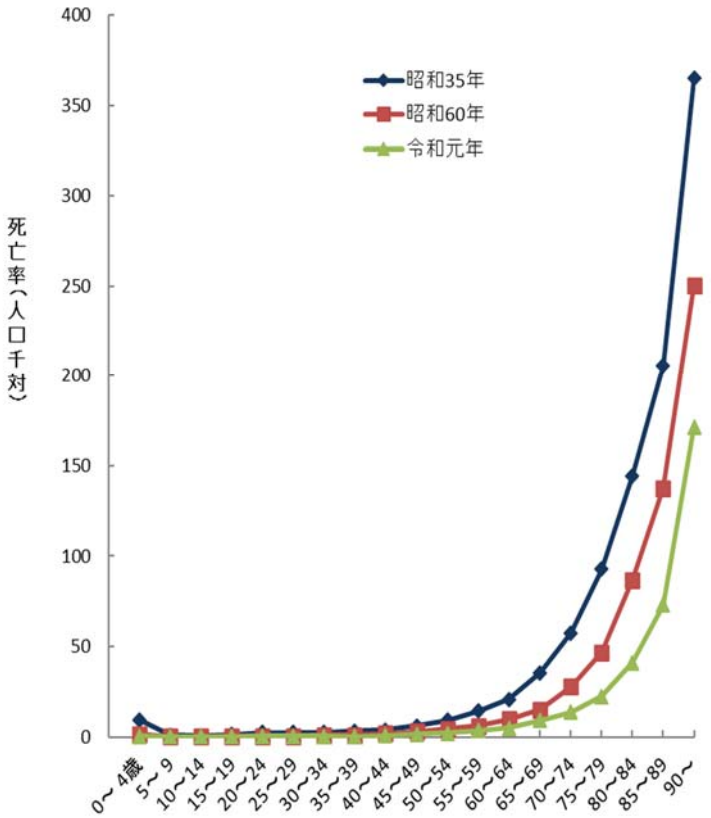


表 4　年齢階級別死亡率（人口千対）の年次推移

年齢階級	佐賀県																全国
	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	**令和元年**	令和元年
総　数	8.5	8.3	8.5	8.0	8.0	7.8	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.7	11.8	12.2	12.4	**12.3**	11.2
0～ 4歳	9.4	6.0	4.5	2.9	2.1	1.7	1.2	1.3	0.9	0.4	0.7	0.4	0.6	0.4	0.3	**0.5**	0.5
5～ 9	1.0	0.6	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	**0.1**	0.1
10～14	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	**0.2**	0.1
15～19	1.2	1.0	0.8	0.4	0.4	0.4	0.6	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	**0.1**	0.2
20～24	2.4	1.6	1.1	0.9	0.7	0.6	0.7	0.6	0.5	0.4	0.5	0.3	0.5	0.4	0.5	**0.5**	0.3
25～29	2.6	2.0	1.3	1.0	0.8	0.5	0.6	0.4	0.5	0.6	0.6	0.4	0.4	0.3	0.5	**0.5**	0.4
30～34	2.4	1.6	1.4	1.4	1.0	1.0	0.6	0.8	0.8	0.6	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	**0.6**	0.5
35～39	3.2	2.4	2.0	1.7	1.5	1.0	1.3	0.9	1.1	0.9	0.8	0.6	0.7	0.7	0.5	**0.3**	0.6
40～44	3.8	3.5	2.8	2.9	2.1	1.8	1.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.0	0.9	1.2	1.1	**0.9**	0.9
45～49	6.1	5.6	4.8	3.8	3.1	3.0	2.4	2.1	2.3	2.2	2.0	1.8	2.1	1.8	2.1	**1.6**	1.5
50～54	9.2	7.6	6.3	5.4	5.1	4.5	4.1	4.0	4.2	3.4	3.1	2.7	2.5	2.6	2.3	**2.2**	2.3
55～59	14.2	12.6	10.0	8.5	7.1	6.0	6.3	5.9	5.4	5.3	4.2	3.7	3.7	3.4	3.9	**3.7**	3.6
60～64	20.8	18.8	16.9	13.2	11.6	9.7	10.0	9.4	7.8	7.3	6.6	6.1	5.9	6.3	5.3	**5.1**	5.7
65～69	35.4	32.7	28.5	21.1	19.2	15.2	13.2	14.5	13.0	11.5	9.7	9.2	8.9	9.0	9.4	**9.3**	9.2
70～74	57.6	49.0	46.4	36.9	33.0	27.9	23.1	21.5	19.6	18.5	16.3	14.5	14.2	13.3	13.6	**13.9**	13.6
75～79	92.7	80.5	79.4	66.3	58.1	46.8	43.1	38.5	31.4	30.8	26.8	24.1	23.8	22.6	23.7	**22.4**	22.7
80～84	144.3	142.8	126.7	110.2	98.5	86.9	72.2	70.1	53.9	47.8	47.4	45.3	41.7	44.9	43.0	**41.2**	41.9
85～89	205.6	206.6	205.2	169.4	159.1	137.6	125.5	117.4	99.5	88.1	85.0	78.3	78.7	80.3	81.4	**73.0**	77.4
90～	365.0	263.6	276.5	277.4	266.6	250.5	235.8	205.1	173.6	167.6	176.0	175.0	175.0	179.0	168.1	**171.6**	169.7
（再掲）																	
85～	232.0	217.2	220.7	193.0	182.8	164.3	155.3	143.6	124.4	118.7	118.2	114.7	116.4	118.8	116.9	**114.2**	113.5

表５　年齢階級別死因順位

令和元年

年齢階級	第１位			第２位			第３位			第４位			第５位		
	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %
総　数	悪性新生物	2721	27.3	心疾患（高血圧性を除く）	1394	14.0	老衰	784	7.9	肺炎	779	7.8	脳血管疾患	771	7.7
０歳	先天奇形、変形及び染色体異常	5	33.3	新生児の細菌性敗血症	2	13.3	出産外傷	1	6.7						
				胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	2	13.3	乳幼児突然死症候群	1	6.7						
							不慮の事故	1	6.7						
１～４	先天奇形、変形及び染色体異常	2	66.7	悪性新生物	1	33.3									
５～９	敗血症	1	33.3												
１０～１４	悪性新生物	3	42.9	その他の新生物	1	14.3									
				先天奇形、変形及び染色体異常	1	14.3									
				不慮の事故	1	14.3									
１５～１９	自殺	3	60.0	悪性新生物	1	20.0									
				不慮の事故	1	20.0									
２０～２４	自殺	8	47.1	脳血管疾患	1	5.9									
				腎不全	1	5.9									
				不慮の事故	1	5.9									
２５～２９	自殺	11	68.8	心疾患（高血圧性を除く）	1	6.3									
				間質性肺疾患	1	6.3									
				筋骨格系及び結合組織の疾患	1	6.3									
				不慮の事故	1	6.3									
３０～３４	自殺	11	45.8	悪性新生物	2	8.3	大動脈瘤及び解離	1	4.2						
				心疾患（高血圧性を除く）	2	8.3	肝疾患	1	4.2						
							先天奇形、変形及び染色体異常	1	4.2						
３５～３９	悪性新生物	5	31.3	自殺	3	18.8	不慮の事故	2	12.5	敗血症	1	6.3			
										心疾患（高血圧性を除く）	1	6.3			
										他殺	1	6.3			
４０～４４	悪性新生物	14	31.1	自殺	13	28.9	心疾患（高血圧性を除く）	4	8.9	脳血管疾患	3	6.7	不慮の事故	2	4.4
４５～４９	悪性新生物	24	28.2	自殺	13	15.3	心疾患（高血圧性を除く）	10	11.8	脳血管疾患	9	10.6	肝疾患	5	5.9
５０～５４	悪性新生物	44	40.7	自殺	11	10.2	心疾患（高血圧性を除く）	10	9.3	肝疾患	8	7.4	脳血管疾患	7	6.5
５５～５９	悪性新生物	80	43.0	心疾患（高血圧性を除く）	18	9.7	脳血管疾患	11	5.9	肝疾患	10	5.4	自殺	9	4.8
										不慮の事故	10	5.4			
６０～６４	悪性新生物	157	55.1	心疾患（高血圧性を除く）	18	6.3	自殺	15	5.3	不慮の事故	9	3.2	肝疾患	8	2.8
				脳血管疾患	18	6.3									
６５～６９	悪性新生物	282	47.6	心疾患（高血圧性を除く）	62	10.5	脳血管疾患	30	5.1	不慮の事故	19	3.2	肺炎	16	2.7
													肝疾患	16	2.7
７０～７４	悪性新生物	336	44.4	心疾患（高血圧性を除く）	75	9.9	脳血管疾患	50	6.6	肺炎	29	3.8	不慮の事故	23	3.0
７５～７９	悪性新生物	409	41.8	脳血管疾患	83	8.5	心疾患（高血圧性を除く）	82	8.4	肺炎	55	5.6	不慮の事故	29	3.0
８０～８４	悪性新生物	455	30.9	心疾患（高血圧性を除く）	183	12.4	脳血管疾患	127	8.6	肺炎	109	7.4	老衰	54	3.7
８５～８９	悪性新生物	482	24.2	心疾患（高血圧性を除く）	304	15.3	肺炎	179	9.0	脳血管疾患	168	8.4	老衰	147	7.4
９０～	心疾患（高血圧性を除く）	624	18.6	老衰	565	16.8	悪性新生物	426	12.7	肺炎	379	11.3	脳血管疾患	264	7.9

注　(1)　０歳については「乳児死因順位に用いる分類項目」、それ以外については「死因順位に用いる分類項目」を使用した。
死因順位は死亡数の多いものからとし、死亡数が同数の場合は同一順位に死因名を列記した。
(2)　割合については、各年齢階級別の死亡総数に対する割合である。

5　死因別にみた死亡

死因順位は、明治から昭和の戦前にかけて上位を占めていた結核、肺炎及び気管支炎、胃腸炎などの感染性疾患が、戦後は次第に後退し、代わって生活習慣が深く関わる疾病と不慮の事故が上位を占めるようになってきた。

平成 29 年から平成 30 年は、1 位悪性新生物、2 位心疾患、3 位脳血管疾患、4 位肺炎、5 位老衰となっており、令和元年は 1 位悪性新生物、2 位心疾患、3 位老衰、4 位肺炎、5 位脳血管疾患となった。

表６　死因順位の年次推移（人口10万対）

佐賀県

年次	第１位		第２位		第３位		第４位		第５位	
	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率
昭和 25 年	結核	140.2	脳血管疾患	107.9	悪性新生物	91.8	老衰	77.2	心疾患	69.7
30	脳血管疾患	134.5	悪性新生物	98.5	老衰	74.5	心疾患	63.6	結核	61.0
35	脳血管疾患	166.6	悪性新生物	125.5	心疾患	71.3	老衰	67.8	肺炎及び気管支炎	50.3
40	脳血管疾患	194.1	悪性新生物	140.3	心疾患	81.3	老衰	59.6	不慮の事故及び有害作用	52.0
45	脳血管疾患	199.4	悪性新生物	149.9	心疾患	110.3	不慮の事故及び有害作用	53.3	老衰	48.5
50	脳血管疾患	183.7	悪性新生物	163.5	心疾患	120.8	不慮の事故及び有害作用	40.2	肺炎及び気管支炎	36.7
55	悪性新生物	178.9	脳血管疾患	162.0	心疾患	141.0	肺炎及び気管支炎	41.0	老衰	34.1
60	悪性新生物	192.2	心疾患	138.2	脳血管疾患	130.8	肺炎及び気管支炎	57.1	不慮の事故及び有害作用	30.1
平成 2	悪性新生物	227.3	心疾患	157.8	脳血管疾患	118.2	肺炎及び気管支炎	73.7	不慮の事故及び有害作用	38.1
7	悪性新生物	262.9	脳血管疾患	137.6	心疾患	127.5	肺炎	98.4	不慮の事故	39.3
12	悪性新生物	282.9	心疾患	125.8	脳血管疾患	119.7	肺炎	94.4	不慮の事故	39.7
17	悪性新生物	313.9	心疾患	145.1	脳血管疾患	115.8	肺炎	102.4	不慮の事故	40.3
22	悪性新生物	320.7	心疾患	162.0	肺炎	133.0	脳血管疾患	106.6	不慮の事故	38.8
27	悪性新生物	325.5	心疾患	152.1	肺炎	133.1	脳血管疾患	100.9	老衰	62.4
28	悪性新生物	334.3	心疾患	160.9	肺炎	124.0	脳血管疾患	100.1	老衰	66.3
29	悪性新生物	337.5	心疾患	165.0	脳血管疾患	106.0	肺炎	98.7	老衰	76.7
30	悪性新生物	340.3	心疾患	168.6	脳血管疾患	105.2	肺炎	98.4	老衰	82.4
令和 元	**悪性新生物**	**336.8**	**心疾患**	**172.5**	**老衰**	**97.0**	**肺炎**	**96.4**	**脳血管疾患**	**95.4**

※平成 29 年から「ICD-10（2013 年版）」を適用。

6　主な死因

令和元年の主な死因について、前年と比較してみると表７のとおりである。

主な死因の死亡数では、「悪性新生物」「肺炎」「脳血管疾患」等が減少し、「心疾患」「老衰」等は増加している。

表７　主な死因順位別死亡数・死亡率　（人口10万対）　佐賀県

死因順位(R1年)	死因	死亡数		死亡率		死亡割合		全国（令和元年）		全国順位（率）	
		令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	死亡率	死亡割合	令和元年	平成30年
	全死因	**9 967**	10 112	**1233.5**	1243.8	**100.0**	100.0	**1116.2**	100.0	**25**	21
1	悪性新生物	**2 721**	2 767	**336.8**	340.3	**27.3**	27.4	**304.2**	27.3	**18**	12
2	心疾患	**1 394**	1 371	**172.5**	168.6	**14.0**	13.6	**167.9**	15.0	**36**	36
3	老衰	**784**	670	**97.0**	82.4	**7.9**	6.6	**98.5**	8.8	**31**	37
4	肺炎	**779**	800	**96.4**	98.4	**7.8**	7.9	**77.2**	6.9	**12**	10
5	脳血管疾患	**771**	855	**95.4**	105.2	**7.7**	8.5	**86.1**	7.7	**26**	19
6	誤嚥性肺炎	**324**	328	**40.1**	40.3	**3.3**	3.2	**32.6**	2.9	**16**	14
7	不慮の事故	**286**	326	**35.4**	40.1	**2.9**	3.2	**31.7**	2.8	**26**	23
8	腎不全	**214**	207	**26.5**	25.5	**2.1**	2.0	**21.5**	1.9	**18**	19
9	アルツハイマー病	**192**	178	**23.8**	21.9	**1.9**	1.8	**16.8**	1.5	**13**	14
10	慢性閉塞性肺疾患	**142**	167	**17.6**	20.5	**1.4**	1.7	**14.4**	1.3	**11**	5
	その他	**2 360**	2 443	**292.1**	300.5	**23.7**	24.2	**265.3**	23.8	**…**	…

注）「誤嚥性肺炎」は平成29年から死因順位に用いる分類項目に追加された。

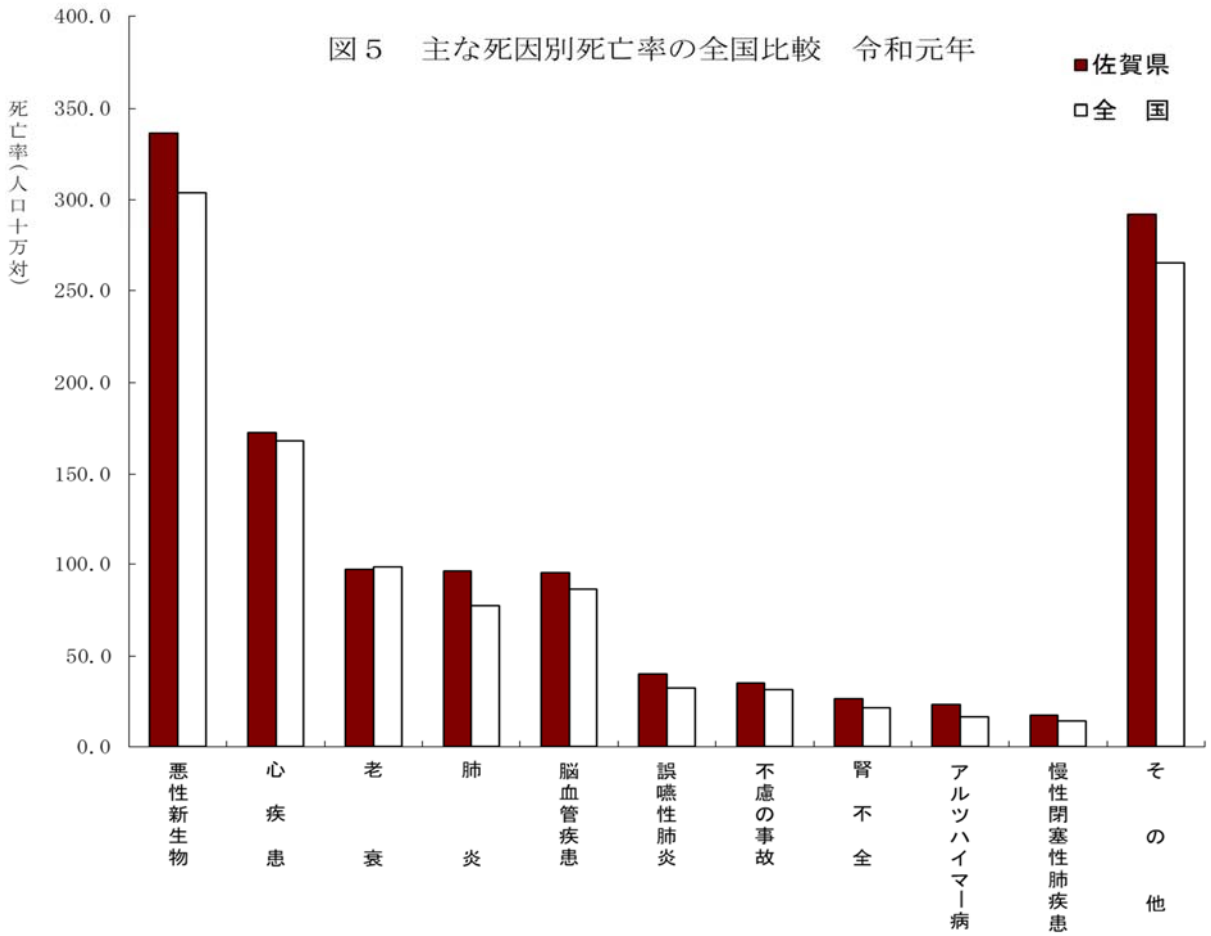
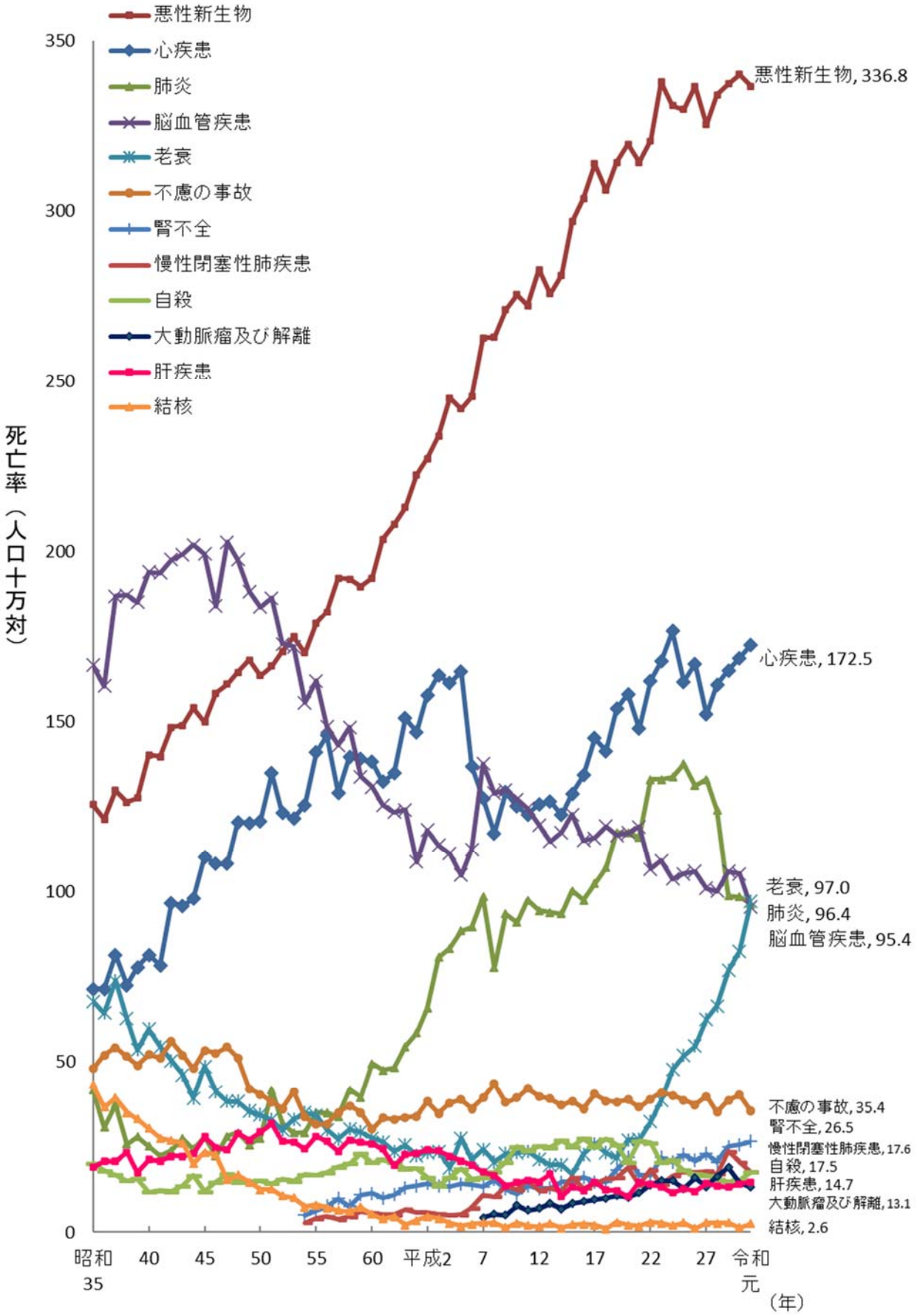


図６　死因別死亡率年次推移　（佐賀県）



（1）悪性新生物

悪性新生物は、昭和 53 年以降の 1 位は変わらない。図 6 にみられるように、死亡率がわずかに低下する年も散見されるものの、他の疾病と違って確実に上昇している。

年齢別では、主に 35 歳から 89 歳までの各年齢層において死因順位の 1 位であり（表 5 参照）、総死亡に占める割合も、昭和 53 年には 22.2%だったが令和元年は 27.3%と増加している。

令和元年の死亡率は 336.8 で、前年の 340.3 を下回ったが、全国の 304.2 との差は大きい。全国順位は 18 位と長年にわたり上位に位置している。

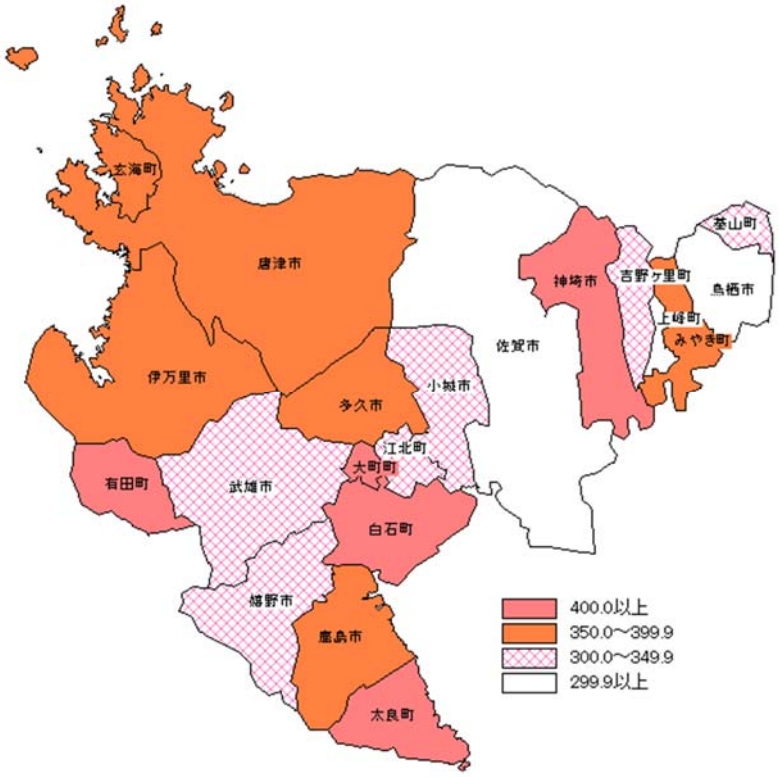
市町別死亡率を表 8、図 7 でみると、最高は大町町の 609.1 で、白石町 422.6、太良町 420.9 と続いている。最低は上峰町の 214.8 で、次いで鳥栖市の 271.0 となっている。

表８　市町別悪性新生物死亡率

令和元年　　佐賀県

市町別	死亡率（人口10万対）
佐　賀　県	**336.8**
大町町	609.1
白石町	422.6
太良町	420.9
神　埼　市	405.2
有田町	402.7
みやき町	392.5
多　久　市	392.2
唐　津　市	374.1
玄海町	368.5
伊万里市	364.9
鹿　島　市	360.1
小　城　市	346.6
吉野ヶ里町	340.2
江北町	336.3
基山町	331.5
嬉　野　市	321.6
武　雄　市	303.6
佐　賀　市	298.6
鳥　栖　市	271.0
上峰町	214.8

図７　市町別悪性新生物死亡率（令和元年）



悪性新生物の部位別死亡は表9、図8のとおりである。

男女別にみると、男性の1位は「気管、気管支及び肺」、2位は「胃」、3位は「肝及び肝内胆管」であり、女性の1位は「膵」、2位は「気管、気管支及び肺」で3位は「結腸」となっている。

全国と比べると高率の部位が多いが、中でも「肝及び肝内胆管」は男性1.2倍、女性1.4倍と高い死亡率である。昭和55年から平成30年までは全国1位または2位で推移しており、令和元年は12位へ低下したが、未だ高い順位に位置している。

表9　　悪性新生物の部位別死亡数･率・割合

令和元年

	死亡数			死亡率(人口10万対)						死亡割合（%）				全国順位
				佐賀県			全　国			佐賀県		全　国		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	男	女	男	女	(総数)
総数	2 721	1 562	1 159	336.8	407.8	272.7	304.2	366.0	245.7	100.0	100.0	100.0	100.0	18
食道	61	52	9	7.5	13.6	2.1	9.4	15.9	3.2	3.3	0.8	4.3	1.3	39
胃	317	202	115	39.2	52.7	27.1	34.7	46.6	23.4	12.9	9.9	12.7	9.5	16
結腸	254	127	127	31.4	33.2	29.9	28.8	29.1	28.5	8.1	11.0	8.0	11.6	18
直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸	120	67	53	14.9	17.5	12.5	12.8	16.4	9.3	4.3	4.6	4.5	3.8	9
肝及び肝内胆管	210	131	79	26.0	34.2	18.6	20.4	27.8	13.4	8.4	6.8	7.6	5.5	12
胆のう及びその他の胆道	135	63	72	16.7	16.4	16.9	14.5	15.5	13.5	4.0	6.2	4.2	5.5	22
膵	272	128	144	33.7	33.4	33.9	29.4	30.1	28.7	8.2	12.4	8.2	11.7	14
気管，気管支及び肺	493	358	135	61.0	93.5	31.8	60.9	88.6	34.7	22.9	11.6	24.2	14.1	34
乳房	96	2	94	11.9	0.5	22.1	12.1	0.2	23.4	0.1	8.1	0.0	9.5	34
子宮	42	・	42	9.9	・	9.9	10.7	・	10.7	・	3.6	・	4.4	36
前立腺	104	104	・	27.2	27.2	・	20.8	20.8	・	6.7	・	5.7	・	3
白血病	76	52	24	9.4	13.6	5.6	7.1	9.0	5.4	3.3	2.1	2.5	2.2	8
その他	541	276	265	67.0	72.1	62.4	58.5	65.9	51.5	17.7	22.9	18.0	20.9	…
（再掲）大腸	374	194	180	46.3	50.7	42.4	41.6	45.5	37.8	12.4	15.5	12.4	15.4	14

注：1）「大腸」は「結腸」と「直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸」を示す。
　　2）「乳房」及び「子宮」の全国順位は、女の順位である。
　　3）「前立腺」の全国順位は、男の順位である。

図8　悪性新生物の部位別死亡割合　（令和元年）　　佐賀県

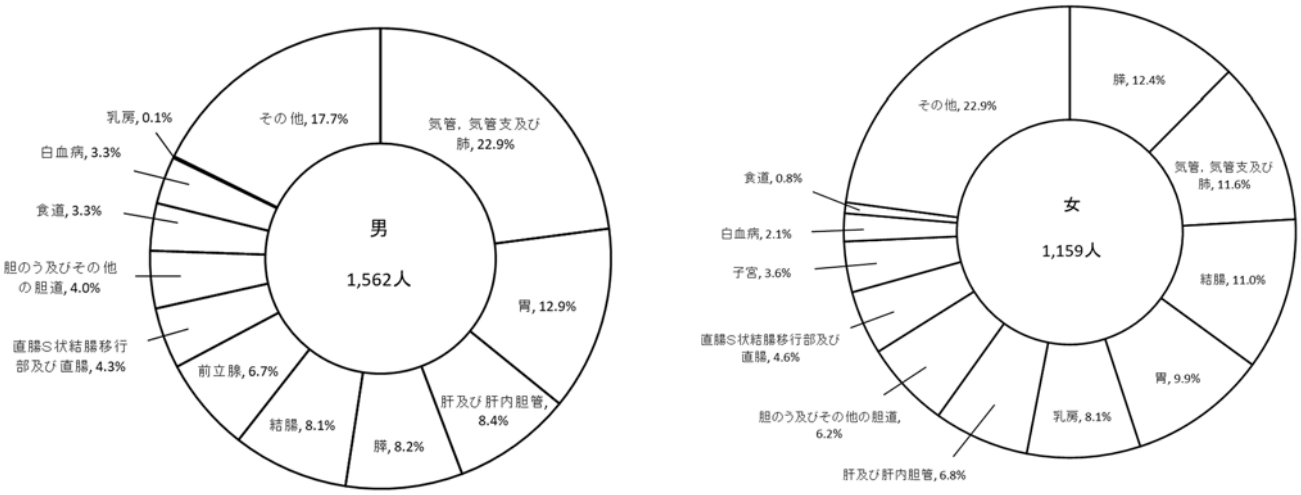


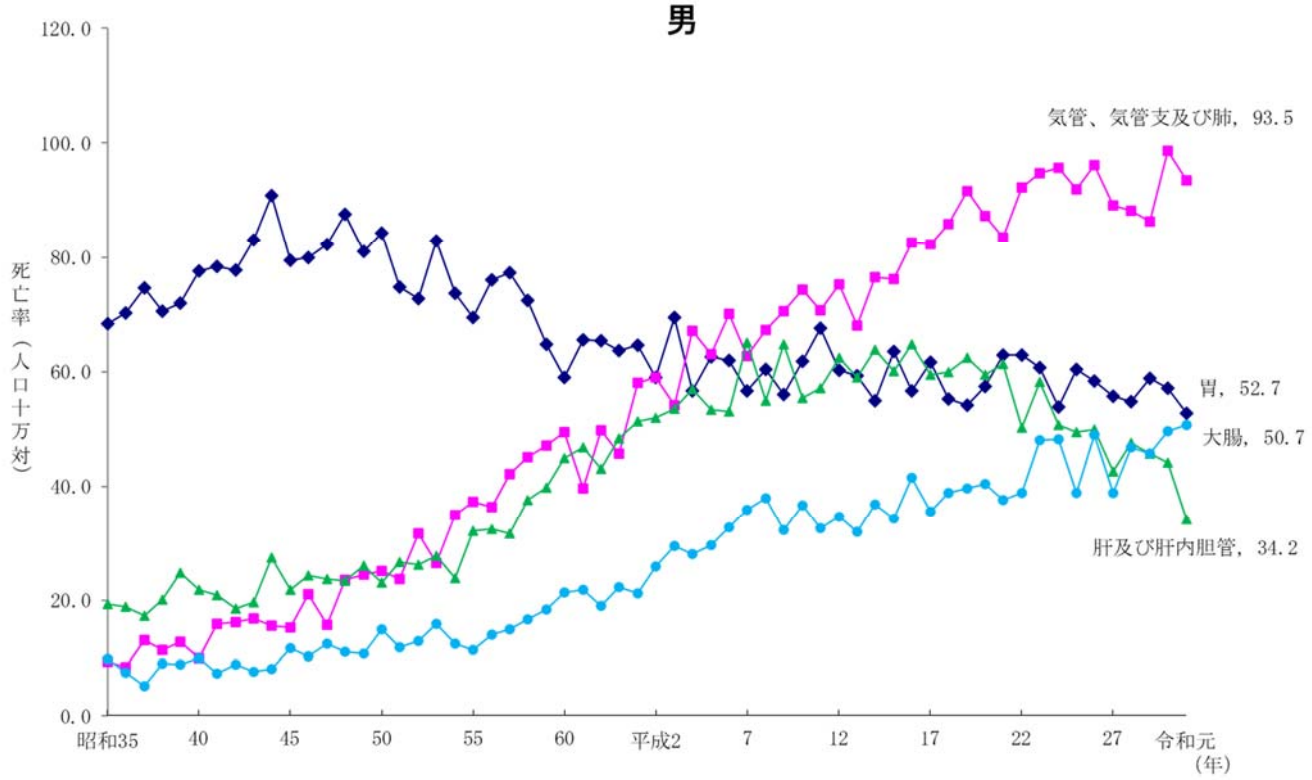
表10　部位別にみた悪性新生物死亡数･死亡率の年次推移

佐賀県

年次	総数	食道	胃	結腸	直腸S状結腸移行部及び直腸	肝及び肝内胆管	胆のう及びその他の胆道	膵	気管・気管支及び肺	乳房	子宮	前立腺	白血病	その他	(再掲) 大腸
昭和 35 年	1 183	33	524	27	43	152	…	23	58	15	85	…	31	192	70
40	1 223	19	521	30	36	165	…	38	66	24	75	…	27	222	66
45	1 255	42	526	36	45	134	…	53	103	25	59	…	45	187	81
50	1 367	33	529	45	63	147	…	49	135	14	68	…	30	254	108
55	1 546	34	474	73	49	190	…	76	217	30	63	…	31	309	122
60	1 712	34	425	102	73	273	…	85	258	30	35	…	48	349	175
平成 2	1 992	35	391	147	77	325	…	127	315	50	46	…	66	413	224
7	2 320	63	404	197	82	374	135	135	373	43	51	51	73	390	279
12	2 473	64	385	175	87	387	143	152	423	64	42	75	78	473	262
17	2 709	73	400	199	88	405	147	203	467	78	31	87	92	439	287
22	2 714	73	391	219	92	348	116	190	510	96	55	98	79	447	311
27	2 698	67	344	230	92	295	123	229	494	93	43	102	85	501	322
28	2 755	58	312	250	95	310	153	249	497	100	51	100	75	505	345
29	2 764	66	348	276	93	290	150	223	476	90	58	90	89	515	369
30	2 767	61	333	253	114	255	155	248	546	99	54	92	75	482	367
令和 元	**2 721**	**61**	**317**	**254**	**120**	**210**	**135**	**272**	**493**	**96**	**42**	**104**	**76**	**541**	**374**
死　亡　率　（人口10万対）															
昭和 35 年	125.5	3.5	55.6	2.9	4.6	16.1	…	2.4	6.2	1.6	17.2	…	3.3	20.4	7.4
40	140.3	2.2	59.8	3.4	4.1	18.9	…	4.4	7.6	2.8	16.3	…	3.1	25.5	7.6
45	149.9	5.0	62.8	4.3	5.4	16.0	…	6.3	12.3	3.0	13.3	…	5.4	22.3	9.7
50	163.5	3.9	63.3	5.4	7.5	17.6	…	5.9	16.1	1.7	15.4	…	3.6	30.4	12.9
55	178.9	3.9	54.9	8.4	5.7	22.0	…	8.8	25.1	3.5	13.9	…	3.6	35.8	14.1
60	192.2	3.8	47.7	11.5	8.2	30.7	…	9.5	29.0	3.4	7.5	…	5.4	39.2	19.6
平成 2	227.3	4.0	44.6	16.8	8.8	37.1	…	14.5	35.9	5.7	9.9	…	7.5	47.1	25.6
7	262.9	7.1	45.8	22.3	9.3	42.4	15.3	15.3	42.3	4.9	11.0	12.2	8.3	44.2	31.6
12	282.9	7.3	44.0	20.0	10.0	44.3	16.4	17.4	48.4	7.3	9.1	18.1	8.9	54.1	30.0
17	313.9	8.5	46.3	23.1	10.2	46.9	17.0	23.5	54.1	9.0	6.8	21.4	10.7	50.9	33.3
22	320.7	8.6	46.2	25.9	10.9	41.1	13.7	22.5	60.3	11.3	12.3	24.6	9.3	52.8	36.8
27	325.5	8.1	41.5	27.7	11.1	35.6	14.8	27.6	59.6	11.2	9.8	26.0	10.3	60.4	38.8
28	334.3	7.0	37.9	30.3	11.5	37.6	18.6	30.2	60.3	12.1	11.7	25.7	9.1	61.3	41.9
29	337.5	8.1	42.5	33.7	11.4	35.4	18.3	27.2	58.1	11.0	13.5	23.3	10.9	62.9	45.1
30	340.3	7.5	41.0	31.1	14.0	31.4	19.1	30.5	67.2	12.2	12.6	23.9	9.2	59.3	45.1
令和 元	**336.8**	**7.5**	**39.2**	**31.4**	**14.9**	**26.0**	**16.7**	**33.7**	**61.0**	**11.9**	**9.9**	**27.2**	**9.4**	**67.0**	**46.3**

注 ： 1)　死因名・死因内容はＩＣＤ－10による。
2)　「子宮」は女性人口10万対の死亡率である。
3)　「前立腺」は男性人口10万対の死亡率である。

図９　悪性新生物の主な部位別死亡率の年次推移（佐賀県）



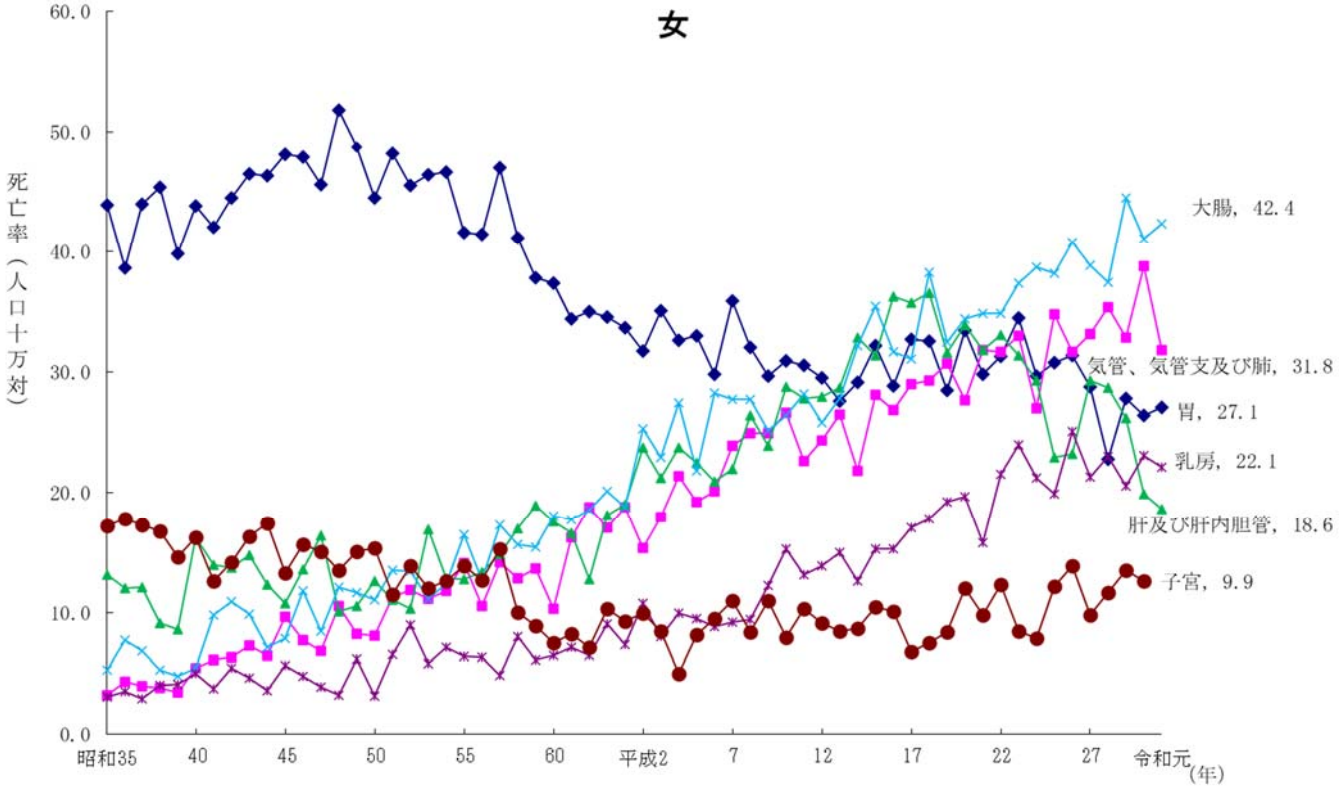


表11　悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率の年次推移

佐賀県

	胃		気管、気管支及び肺		肝及び肝内胆管		大腸		乳房		子宮	
総数												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	524	55.6	58	6.2	152	16.1	70	7.4	15	1.6	85	17.2
40	521	59.8	66	7.6	165	18.9	66	7.6	24	2.8	75	16.3
45	526	62.8	103	12.3	134	16.0	81	9.7	25	3.0	59	13.3
50	529	63.3	135	16.1	147	17.6	108	12.9	14	1.7	68	15.4
55	474	54.9	217	25.1	190	22.0	122	14.1	30	3.5	63	13.9
60	425	47.7	258	29.0	273	30.7	175	19.6	30	3.4	35	7.5
平成 2	391	44.6	315	35.9	325	37.1	224	25.6	50	5.7	46	9.9
7	404	45.8	373	42.3	374	42.4	279	31.6	43	4.9	51	11.0
12	385	44.0	423	48.4	387	44.3	262	30.0	64	7.3	42	9.1
17	400	46.3	467	54.1	405	46.9	287	33.3	78	9.0	31	6.8
22	391	46.2	510	60.3	348	41.1	311	36.8	96	11.3	55	12.3
27	344	41.5	494	59.6	295	35.6	322	38.8	93	11.2	43	9.8
28	312	37.9	497	60.3	310	37.6	345	41.9	100	12.1	51	11.7
29	348	42.5	476	58.1	290	35.4	369	45.1	90	11.0	58	13.5
30	333	41.0	546	67.2	255	31.4	367	45.1	99	12.2	54	12.6
令和 元	**317**	**39.2**	**493**	**61.0**	**210**	**26.0**	**374**	**46.3**	**96**	**11.9**	**42**	**9.9**
男												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	307	68.4	42	9.4	87	19.4	44	9.8	-	-	・	・
40	319	77.6	41	10.0	90	21.9	41	10.0	1	0.2	・	・
45	312	79.4	60	15.3	86	21.9	46	11.7	-	-	・	・
50	332	84.3	99	25.1	91	23.1	59	15.0	-	-	・	・
55	285	69.5	153	37.3	132	32.2	47	11.5	1	0.2	・	・
60	251	59.1	210	49.4	191	44.9	91	21.4	-	-	・	・
平成 2	244	59.0	244	59.0	215	51.9	107	25.9	-	-	・	・
7	237	56.7	262	62.7	272	65.1	150	35.9	-	-	・	・
12	249	60.2	311	75.2	258	62.4	143	34.6	-	-	・	・
17	251	61.7	335	82.3	242	59.4	145	35.6	-	-	・	・
22	251	62.9	368	92.3	200	50.2	155	38.9	-	-	・	・
27	218	55.7	349	89.1	167	42.6	152	38.8	-	-	・	・
28	213	54.8	343	88.2	185	47.6	182	46.8	-	-	・	・
29	228	58.9	334	86.3	177	45.7	177	45.7	1	0.3	・	・
30	220	57.1	380	98.7	170	44.2	191	49.6	-	-	・	・
令和 元	**202**	**52.7**	**358**	**93.5**	**131**	**34.2**	**194**	**50.7**	**2**	**0.5**	**・**	**・**
女												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	217	43.9	16	3.2	65	13.2	26	5.3	15	3.0	85	17.2
40	202	43.8	25	5.4	75	16.3	25	5.4	23	5.0	75	16.3
45	214	48.2	43	9.7	48	10.8	35	7.9	25	5.6	59	13.3
50	197	44.5	36	8.1	56	12.7	49	11.1	14	3.2	68	15.4
55	189	41.6	64	14.1	58	12.8	75	16.5	29	6.4	63	13.9
60	174	37.4	48	10.3	82	17.6	84	18.0	30	6.4	35	7.5
平成 2	147	31.8	71	15.4	110	23.8	117	25.3	50	10.8	46	9.9
7	167	35.9	111	23.9	102	22.0	129	27.8	43	9.3	51	11.0
12	136	29.5	112	24.3	129	28.0	119	25.8	64	13.9	42	9.1
17	149	32.7	132	29.0	163	35.8	142	31.1	78	17.1	31	6.8
22	140	31.3	142	31.7	148	33.1	156	34.9	96	21.5	55	12.3
27	126	28.8	145	33.2	128	29.3	170	38.9	93	21.3	43	9.8
28	99	22.8	154	35.4	125	28.7	163	37.5	100	23.0	51	11.7
29	120	27.8	142	32.9	113	26.2	192	44.5	89	20.6	58	13.5
30	113	26.4	166	38.8	85	19.9	176	41.1	99	23.1	54	12.6
令和 元	**115**	**27.1**	**135**	**31.8**	**79**	**18.6**	**180**	**42.4**	**94**	**22.1**	**42**	**9.9**

注「子宮」の死亡率は女子人口10万対の率である。

（2）心　疾　患

心疾患の死因順位は、昭和 35 年から 58 年までは第 3 位で、59 年に脳血管疾患に代わって第 2 位となり、平成 7 年から第 3 位と順位を下げたが、12 年からは再び第 2 位となり、以降継続してその順位を保っている。

総死亡に占める割合は、昭和 35 年は 8.3%、50 年は 15.0%となり、この 10 年間は 15%前後で推移しており、令和元年は 14.0%となっている。

死亡率は、昭和 35 年は 71.3、45 年が 110.3、48 年で 120.6 と、多少の起伏を伴いながら上昇し、平成 5 年の 164.7 をピークに 6 年から 8 年にかけて大幅に減少したが、その後はまた上昇傾向にあり、平成 24 年には 176.5 と昭和 35 年以降で最も高い率となり、令和元年は 172.5 となった。全国は 167.9 で、全国順位は前年と同順の 36 位となった。

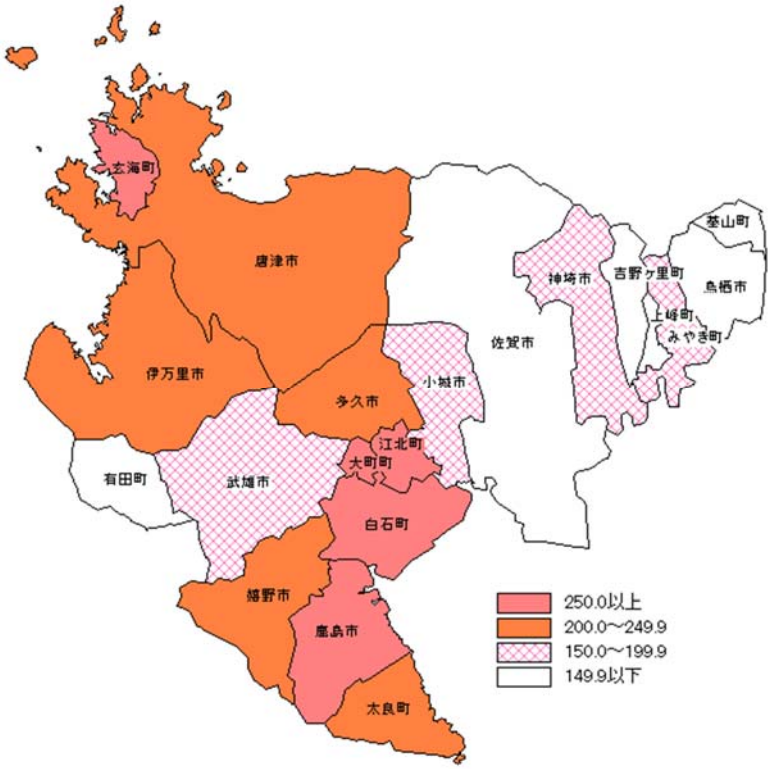
市町別心疾患死亡率を表 12、図 10 でみると、最高は大町町の 352.6、次いで玄海町の 294.8、最低は上峰町の 85.9、次いで鳥栖市の 110.9 となっている。

表12 市町別心疾患死亡率

令和元年　　佐賀県

市町別	死亡率（人口10万対）
佐 賀 県	**172.5**
大 町 町	352.6
玄 海 町	294.8
白 石 町	274.2
江 北 町	273.3
鹿 島 市	263.9
太 良 町	247.6
嬉 野 市	220.9
多 久 市	212.4
唐 津 市	205.0
伊万里市	202.3
みやき町	182.4
武 雄 市	175.9
神 埼 市	162.1
小 城 市	152.5
佐 賀 市	141.5
基 山 町	139.6
吉野ヶ里町	136.1
有 田 町	125.5
鳥 栖 市	110.9
上 峰 町	85.9

図 10　市町別心疾患死亡率（令和元年）



（３）脳血管疾患

脳血管疾患は、昭和 28 年以降第 1 位であったが、53 年に悪性新生物に代わって第 2 位、59 年からは心疾患に代わり第 3 位となった。その後、平成 7 年から 11 年には再び第 2 位となったが、これは、平成 7 年 1 月からのＩＣＤ－10 の導入による原死因選択ルールの明確化等によるもので、死亡傾向が急激に変化したものとは考えにくい。

その後、平成 12 年から平成 30 年までは第 3 位と第 4 位で順位変動を繰り返し推移していたが、令和元年は第 5 位となった。

総死亡数に占める割合は、昭和 47 年が 24.5%とピークであったが、令和元年は 7.7%となった。

死亡率は、戦後漸増してきたが、昭和 47 年の 202.8 以降減少し、平成 5 年に 104.9 が最低となった。その後は増減を繰り返しながら推移し、令和元年は 95.4（全国順位 26 位）で平成 28 年の 100.1（全国順位 24 位）を抜き戦後最低となったが、依然として全国の 86.1 を上回っている。

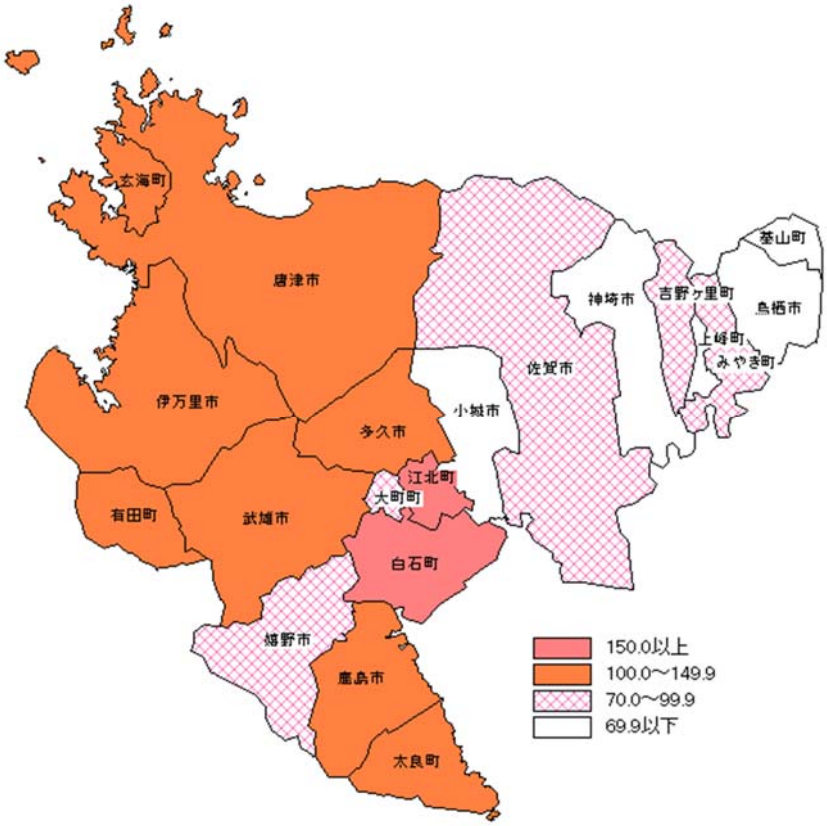
市町別脳血管疾患死亡率を表 13、図 11 でみると、最高は白石町の 166.3、次いで江北町の 157.7 で、最低は上峰町の 10.7、次いで鳥栖市の 57.5 となった。

表13 市町別脳血管疾患死亡率

令和元年　　佐賀県

市町別	死亡率（人口10万対）
佐 賀 県	**95.4**
白 石 町	166.3
江 北 町	157.7
有 田 町	141.2
伊万里市	130.5
玄 海 町	129.0
多 久 市	125.3
武 雄 市	115.2
太 良 町	111.4
鹿 島 市	107.0
唐 津 市	106.8
みやき町	95.1
嬉 野 市	89.1
佐 賀 市	88.7
大 町 町	80.1
吉野ヶ里町	74.2
基 山 町	69.8
神 埼 市	68.1
小 城 市	67.0
鳥 栖 市	57.5
上 峰 町	10.7

図 11　市町別脳血管疾患死亡率（令和元年）



（4）不慮の事故

死因順位は、昭和 56 年以降第 5 位が続いていたが、平成 24 年に第 6 位となり、令和元年は 7 位となっている。

死亡率は、多少の上下はあるものの昭和 50 年代からほぼ横ばい状態にあり、令和元年は 35.4 で全国 26 位であった。

不慮の事故の中で最も多いのは転倒・転落・墜落（死亡率 9.2）で、死亡者の 95.9%を 65 歳以上の高齢者で占めている。

なお、交通事故（死亡率 5.2）は昨年より増加しており、傷害発生地別にみた路上交通事故の死亡率は 5.2 と、全国の 3.5 より高くなっている。

表14　路上交通事故死亡率（人口10万対）及び自動車保有台数の年次推移

年次	路上交通事故死亡率(注)		自動車保有台数(各年３月末)	
	佐　賀　県	全　　国	佐　賀　県	全　　国
昭和30 年	4.0	6.7	7 699	1 311 781
35	12.9	14.4	16 990	2 775 189
40	22.7	16.5	40 831	6 984 864
45	27.0	20.9	126 891	16 528 521
50	15.9	12.8	218 267	27 870 475
55	10.5	10.1	311 222	37 333 250
60	11.1	10.5	384 837	46 009 247
平成 2 年	16.4	11.9	459 958	57 993 866
7	16.9	11.4	540 614	68 103 696
12	14.6	9.5	595 127	74 582 612
17	9.8	7.1	632 469	78 278 880
22	7.6	5.1	648 148	78 693 495
24	7.3	4.6	653 868	79 112 584
25	7.3	4.3	659 792	79 625 203
26	7.9	4.1	665 441	80 272 571
27	7.1	4.0	670 757	80 670 393
28	5.0	3.8	672 037	80 900 730
29	5.6	3.6	675 328	81 260 206
30	4.1	3.3	678 450	81 563 101
令和元 年	**5.2**	**3.5**	**680 153**	**81 789 318**

注：路上交通事故の発生地別による死亡率である。
　　ただし、平成2年以前は自動車事故の死亡率である。

第３章　乳 児 死 亡

１　乳児死亡の動き

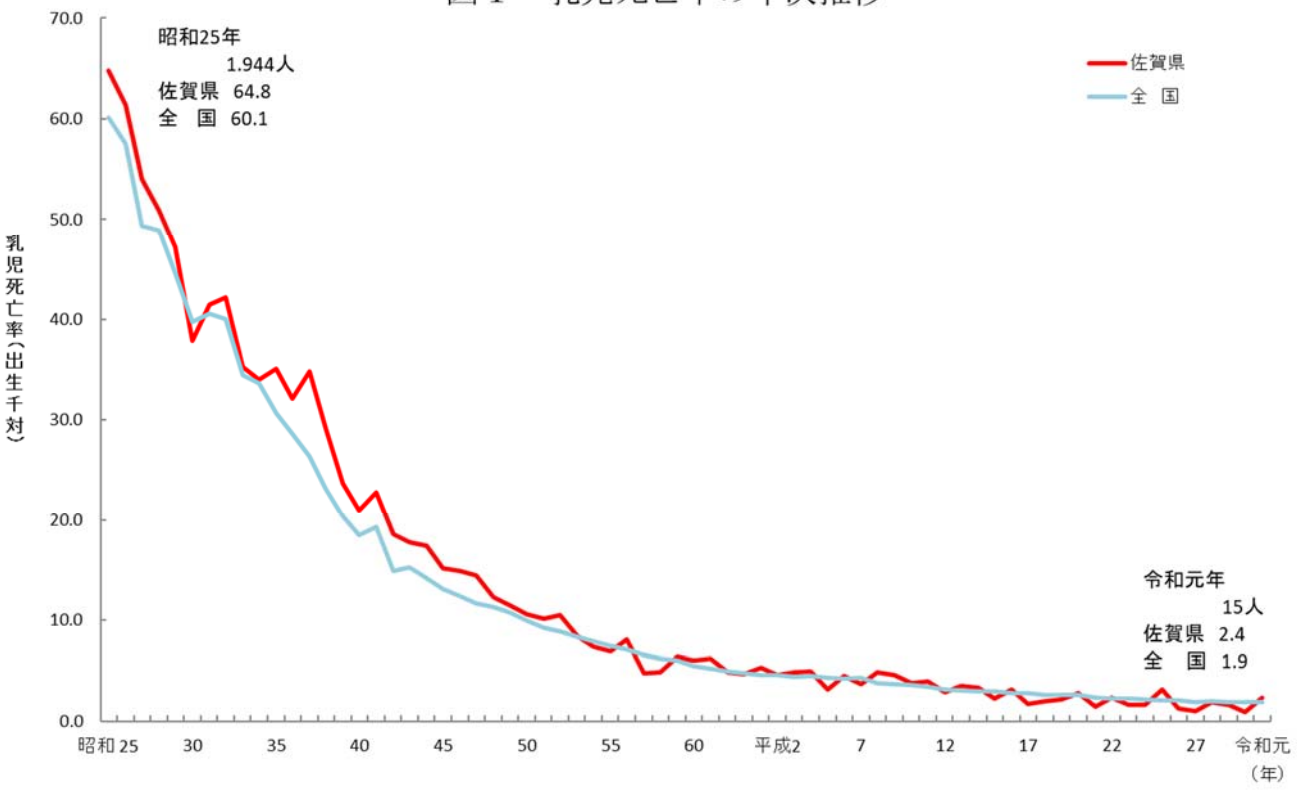
令和元年の乳児死亡数は 15 人で前年の 6 人を上回り、乳児死亡率（出生千対）は 2.4 となった。

生後 1 年未満の死亡を乳児死亡といい、通常、出生数千に対する乳児死亡率で観察する。死亡統計で特にこれを取り上げて観察の対象とするのは、乳児の死亡は妊娠中の母体の保護と出生後の乳児の適切な保育によって、比較的容易に改善が図られるものであり、これらの条件は母親と乳児を取り巻く生活環境に左右される。乳児死亡率は、このような理由と算出の容易さから、公衆衛生の指標としてしばしば使われている。

本県の乳児死亡率の推移を図 1 でみると、戦後は医療の進歩や公衆衛生の向上などにより急速な低下傾向をたどり、近年は昭和 25 年当時と比べると激減している。

乳児死亡率を全国と比べると、戦後長期間にわたり上回って推移していたが、昭和 54 年以降は下回っている年も多くなっている。平成 30 年に全国順位 46 位と低下したものの、令和元年は全国 9 位に上昇した。

図１　乳児死亡率の年次推移



２　生存期間と乳児死亡

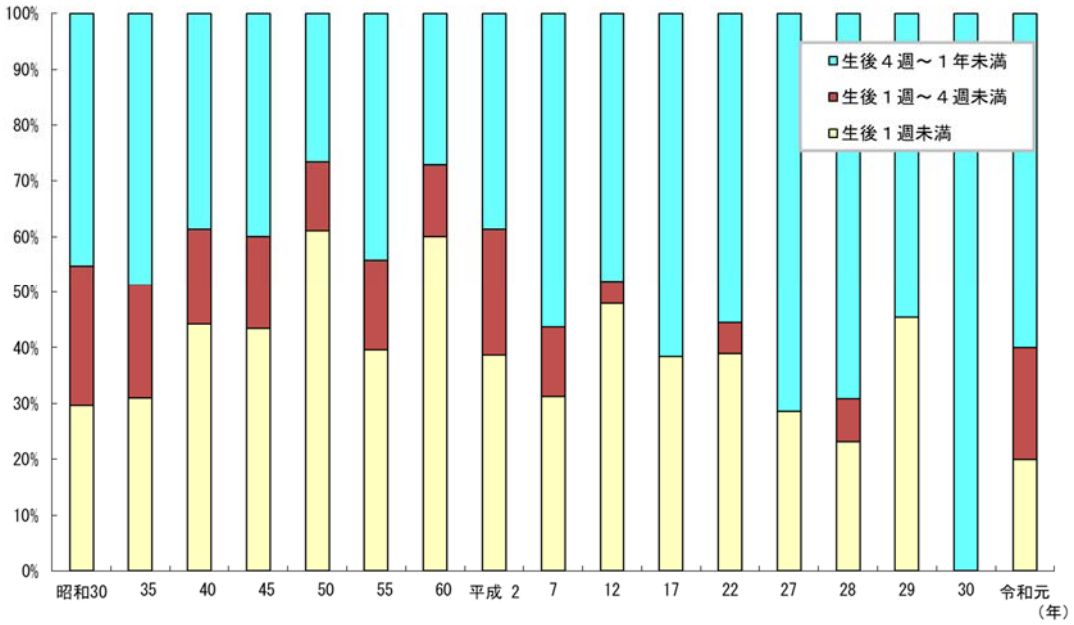
令和元年の乳児死亡率を生存期間によって分けてみると表 1、図 2 のとおりで、4 週未満のいわゆる新生児死亡は 6 人で、４週以上１年未満の乳児死亡の内、6 ヶ月～9 ヶ月未満が 5 人(33.3%)、3 ヶ月～6 ヶ月が 2 人 (13.3%)、4 週～3 か月未満・9 ヶ月～１年未満がそれぞれ１人(6.7%)となっている。

表１　生存期間別・年次別乳児死亡率（出生千対）

佐賀県

年　次	総　数	4 週未満	（再掲） 1週未満	1日未満	4 週～3ヶ月未満	3ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～9ヶ月未満	9ヶ月～1年未満
昭和 30 年	37.9	20.7	11.3	2.6	7.9	5.1	2.4	1.9
35	35.1	18.0	10.9	2.1	7.0	5.0	3.1	2.0
40	21.0	12.9	9.3	1.9	2.8	2.3	1.7	1.3
45	15.2	9.1	6.6	2.4	2.2	1.4	1.3	1.2
50	10.6	7.8	6.5	2.1	0.8	0.9	0.7	0.5
55	6.8	3.9	2.7	0.8	1.3	0.8	0.4	0.6
60	6.0	4.4	3.6	1.4	0.4	0.4	0.3	0.5
平成 2 年	4.6	2.8	1.8	0.8	0.5	0.7	0.2	0.3
7	3.7	1.6	1.1	0.6	0.9	0.6	0.5	0.1
12	2.9	1.5	1.4	0.7	0.8	0.2	0.2	0.1
17	1.7	0.7	0.7	0.4	0.4	0.1	0.3	0.3
22	2.4	1.0	0.9	0.5	0.3	0.4	0.1	0.5
27	1.0	0.3	0.3	-	0.1	0.6	-	-
28	1.9	0.6	0.4	0.3	0.1	0.6	0.4	0.1
29	1.6	0.7	0.7	0.7	0.4	0.3	0.1	-
30	0.9	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.3	0.2
令和 元 年	**2.4**	**1.0**	**0.5**	**0.3**	**0.2**	**0.3**	**0.8**	**0.2**
割合(R1)	100.0	40.0	20.0	13.3	6.7	13.3	33.3	6.7

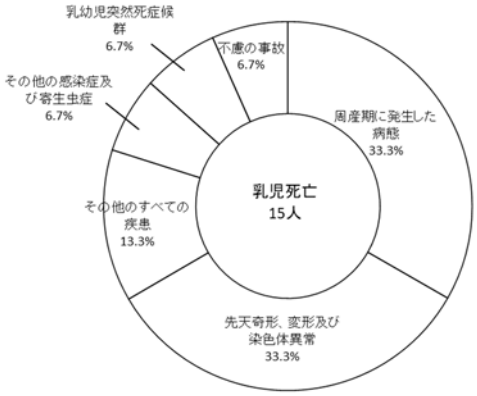
図２　生存期間別・年次別乳児死亡率　（佐賀県）



3　乳児死亡の原因

乳児死亡の原因は、先天的なものと後天的なものに大きく分けられる。令和元年について死因別にみると、図３のとおりで、周産期に発生した病態、先天奇形、変形及び染色体異常がそれぞれ５人（33.3%）、その他のすべての疾患が２人（13.3%）、その他の感染症及び寄生虫症、乳幼児突然死症候群、不慮の事故がそれぞれ１人（6.7%）となっている。

図３　乳児死亡の原因別割合　令和元年（佐賀県）



第４章　死　　産

１　死産の動き

令和元年の死産数は 125 胎で前年の 142 胎より減少し、死産率（出産千対）は、19.7 で前年の 21.3 を下回った。

自然死産率は 10.9 で全国の 10.2 を上回り、人工死産率は 8.8 で全国の 11.8 を下回った。

死産率の年次推移を図 1 でみると、自然死産は昭和 41 年をピークにその後は低下を続け、人工死産も昭和 28 年をピークに多少の起伏はあるものの低下傾向にある。なお、昭和 58 年以降は、平成 27 年および令和元年を除き、自然死産率より人工死産率が高くなっている。

図１　自然－人工別死産率の年次推移　佐賀県

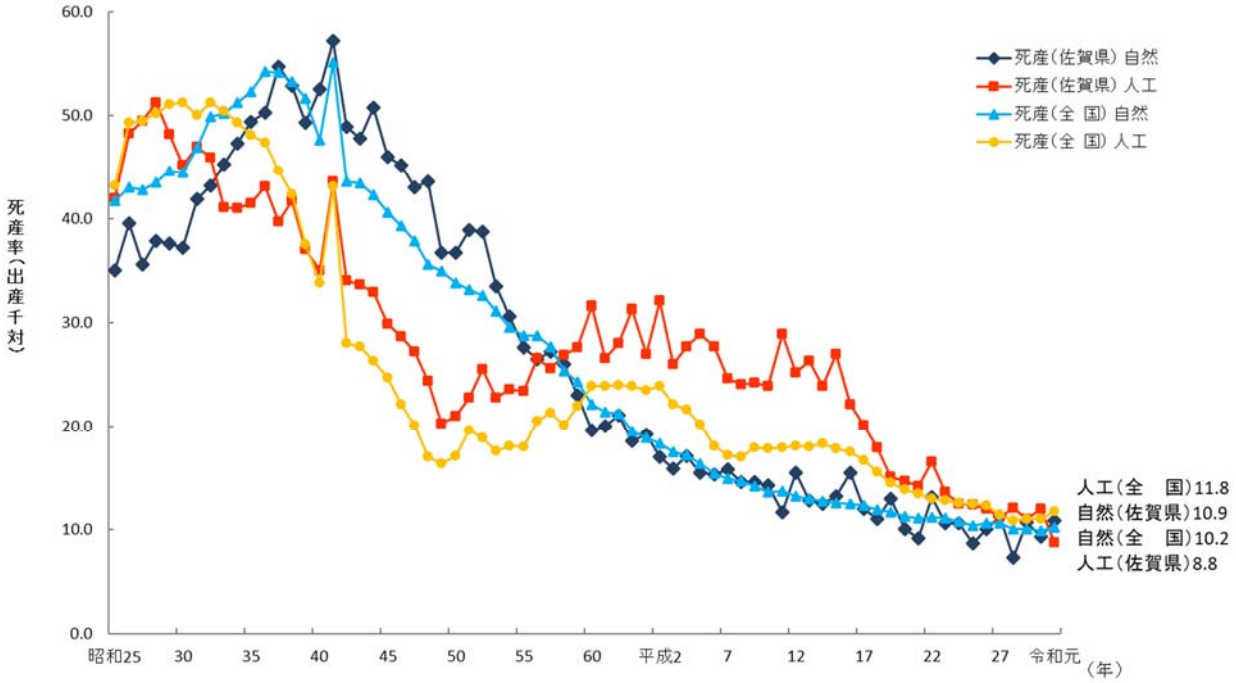


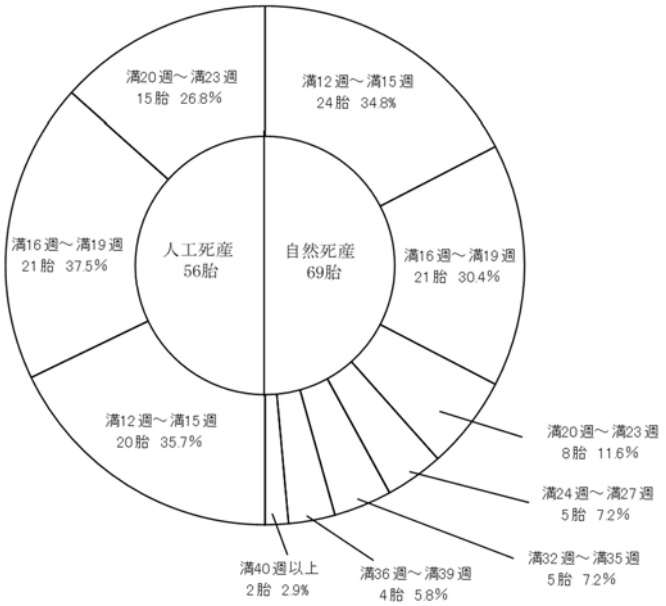
表 1 自然 －人工別死産数と死産率の年次推移　　佐賀県

年次	総数		自然死産		人工死産		全国死産率	
	実数	死産率	実数	死産率	実数	死産率	自然	人工
昭和 25 年	2 501	77.0	1 136	35.0	1 365	42.0	41.7	43.2
30	2 001	82.5	903	37.2	1 098	45.2	44.5	51.3
35	1 729	90.9	940	49.4	789	41.5	52.3	48.1
40	1 386	87.6	832	52.6	554	35.0	47.6	33.8
45	1 083	75.9	656	46.0	427	29.9	40.6	24.7
50	801	57.7	509	36.7	292	21.0	33.8	17.1
55	670	51.0	363	27.6	307	23.4	28.8	18.0
58	669	52.9	329	26.0	340	26.9	25.4	20.1
60	632	51.2	242	19.6	390	31.6	22.1	23.9
平成 2 年	494	49.2	171	17.0	323	32.1	18.3	23.9
7	368	40.5	144	15.8	224	24.6	14.9	17.2
12	371	40.7	141	15.5	230	25.2	13.2	18.1
17	249	32.1	93	12.0	156	20.1	12.3	16.7
22	233	29.6	103	13.1	130	16.5	11.2	13.0
27	163	22.6	82	11.3	81	11.2	10.6	11.4
28	135	19.4	51	7.3	84	12.1	10.1	10.9
29	150	21.8	74	10.7	76	11.0	10.1	11.0
30	142	21.3	62	9.3	80	12.0	9.9	11.0
令和 元 年	**125**	**19.7**	**69**	**10.9**	**56**	**8.8**	**10.2**	**11.8**

2　妊娠期間別の死産

妊娠期間別について図 2 でみると、自然死産では満 12～15 週が 34.8%、満 16～19 週が 30.4%、満 20～23 週が 11.6%と、満 12～23 週までが全体の 76.8%を占めている。

図２ 妊娠期間別死産の割合(自然－人工)　令和元年（佐賀県）



3　人工妊娠中絶

死産統計には、母体保護法による妊娠満 12 週から満 21 週までの人工妊娠中絶を含んでいる。同法による人工妊娠中絶の件数は、昭和 25 年の 3,449 件から年々増加し、昭和 27 年に人工妊娠中絶の理由として「経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合」が認められてから急増した。しかし、昭和 31 年の 13,721 件をピークにその後は減少を続け、令和元年度には 1,070 件となっている。

妊娠週数別割合をみると表 2 のとおりで、母体の負担が比較的軽い満 11 週以内の妊娠初期に多く、長年全体の９割以上を占めている。

表 2 人工妊娠中絶数と率及び妊娠週数別割合の年次推移

佐賀県

年次	人工妊娠中絶数	人工妊娠中絶率		妊娠週数別割合 (%)			
		佐賀県	全国	満11週以内	満12～19週	満20週以後	不詳
昭和 25 年	3 449	14.4	15.0	68.0	22.6	9.2	0.2
30	12 769	52.1	50.2	89.0	7.7	3.3	0.0
35	8 221	34.3	42.0	92.1	5.3	2.6	0.0
40	6 998	30.4	30.2	94.5	3.3	2.2	—
45	6 041	26.4	24.8	95.5	3.0	1.5	0.0
50	4 918	22.4	22.1	96.6	2.2	1.2	—
55	4 795	22.2	19.5	94.2	4.3	1.5	—
60	4 711	22.3	17.8	93.3	4.6	2.1	—
平成 2	4 981	23.9	14.5	94.0	4.8	1.3	—
7	3 966	19.8	11.1	95.3	4.0	0.7	—
12	3 552	18.5	11.7	94.9	4.5	0.6	—
17	2 824	15.3	10.3	95.8	3.4	0.8	—
22	1 846	11.0	7.9	96.6	2.9	0.5	—
27	1 416	8.9	6.8	96.4	3.1	0.5	—
28	1 257	7.9	6.5	96.1	3.3	0.6	—
29	1 240	8.0	6.4	96.6	2.4	1.0	—
30	1 120	7.2	6.4	94.7	3.8	1.4	—
令和 元	**1 070**	**7.0**	**6.2**	**97.7**	**1.9**	**0.5**	**—**

注:率は15歳以上50歳未満の女子人口千対である。
資料:厚生労働省「衛生行政報告例」（平成13年以前は「母体保護統計」）

第５章　周産期死亡

周産期死亡とは、妊娠満 22 週以後の死産に生後 1 週未満の早期新生児死亡を加えたものをいい、これは、周産期の児の死亡には母体の健康状態に強く作用されるという共通性が認められるためである。つまり、周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対）が高くなるほど母体の保護が不十分であるといえる。

令和元年の妊娠満 22 週以後の死産数は 18 胎、死産率は 2.9 で前年の 1.8 を上回った。

また、早期新生児死亡数は 3 人、死亡率は 0.5 で前年の 0.0 を上回った。

早期新生児死亡率を図 1、表 1 でみると、昭和 37 年の 13.4 をピークに年々低下し、57 年には 2.0 となった。その後も多少の起伏はあるものの低下傾向にある。

なお、令和元年の周産期死亡率は 3.4 と前年の 1.8 を上回り、全国 27 位となった。

図１　周産期死亡率の年次推移　佐賀県

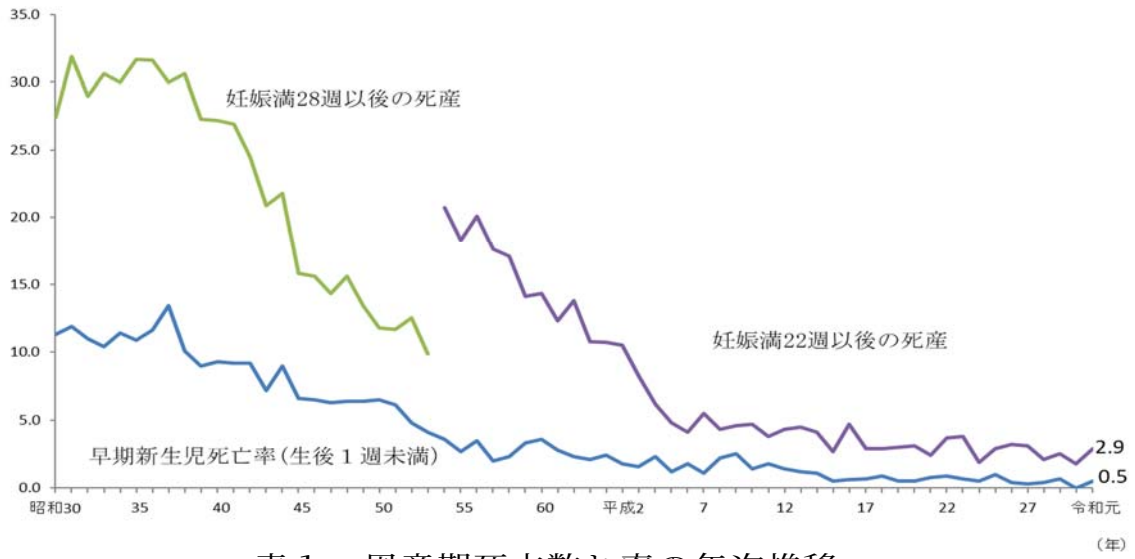


表１　周産期死亡数と率の年次推移

佐賀県

年次	周産期死亡		妊娠満22週以後の死産		早期新生児死亡		周産期死亡中妊娠満22週以後の死産のしめる割合（%）
	死亡数	死亡率	死産数	死産率	死亡数	死亡率	
昭和 30 年	862	38.7	611	27.4	251	11.3	70.9
35	737	42.6	549	31.7	188	10.9	74.5
37	657	43.3	454	30.0	203	13.4	69.1
40	527	36.5	393	27.2	134	9.3	74.6
45	296	22.4	209	15.8	87	6.6	70.6
50	240	18.3	155	11.8	85	6.5	64.6
55	266	20.9	232	18.3	34	2.7	87.2
57	242	19.5	218	17.6	24	2.0	90.1
60	212	17.9	170	14.3	42	3.6	80.2
平成 2	118	12.2	101	10.5	17	1.8	85.6
7	58	6.6	48	5.5	10	1.1	82.8
12	50	5.7	38	4.3	12	1.4	76.0
17	27	3.6	22	2.9	5	0.7	81.5
22	35	4.6	28	3.7	7	0.9	80.0
27	24	3.4	22	3.1	2	0.3	91.7
28	17	2.5	14	2.1	3	0.4	82.4
29	22	3.3	17	2.5	5	0.7	77.3
30	12	1.8	12	1.8	0	0.0	100.0
令和 元	21	3.4	18	2.9	3	0.5	85.7
全国(R1)	**2 955**	**3.4**	**2 377**	**2.7**	**578**	**0.7**	**80.4**

次に令和元年の周産期死亡を原因別にみると表 2 のとおりで、母側病態では「母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児」が 61.9%を占め、児側病態では「周産期に発生した病態」が 95.2%を占めている。

表２　妊娠満22週以後の死産-早期新生児死亡・原因別周産期死亡数と死亡割合（令和元年）

佐賀県

死因（母側病態・児側病態）		死亡数 総数	死亡数 妊娠満22週以後の死産	死亡数 早期新生児死亡	構成割合（%） 総数	構成割合（%） 妊娠満22週以後の死産	構成割合（%） 早期新生児死亡
総数		21	18	3	100.0	100.0	100.0
母側	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	13	11	2	61.9	61.1	66.7
	現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	6	6	-	28.6	33.3	-
	母体の妊娠合併症により影響を受けた胎児及び新生児	3	1	2	14.3	5.6	66.7
	胎盤,臍帯及び卵膜の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	4	4	-	19.0	22.2	-
	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-
	胎盤又は母乳を介して有害な影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-
	母体に原因なし	8	7	1	38.1	38.9	33.3
児側	感染症及び寄生虫症	-	-	-	-	-	-
	新生物	-	-	-	-	-	-
	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-	-	-	-	-	-
	内分泌,栄養及び代謝疾患	-	-	-	-	-	-
	精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-
	神経系の疾患	-	-	-	-	-	-
	眼及び付属器の疾患	-	-	-	-	-	-
	耳及び乳様突起の疾患	-	-	-	-	-	-
	循環器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	呼吸器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	消化器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	皮膚及び皮下組織の疾患	-	-	-	-	-	-
	筋骨格系及び結合組織の疾患	-	-	-	-	-	-
	尿路性器系の疾患	-	-	-	-	-	-
	周産期に発生した病態	20	17	3	95.2	94.4	100.0
	先天奇形,変形及び染色体異常	1	1	-	4.8	5.6	-
	症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	-	-	-	-	-	-
	損傷,中毒及びその他の外因の影響	-	-	-	-	-	-

第６章　婚姻と離婚

１　婚姻の動き

令和元年の本県の婚姻数は 3,394 件で前年の 3,449 件より減少し、婚姻率（人口千対）は 4.2 で前年の 4.2 と同値であった。

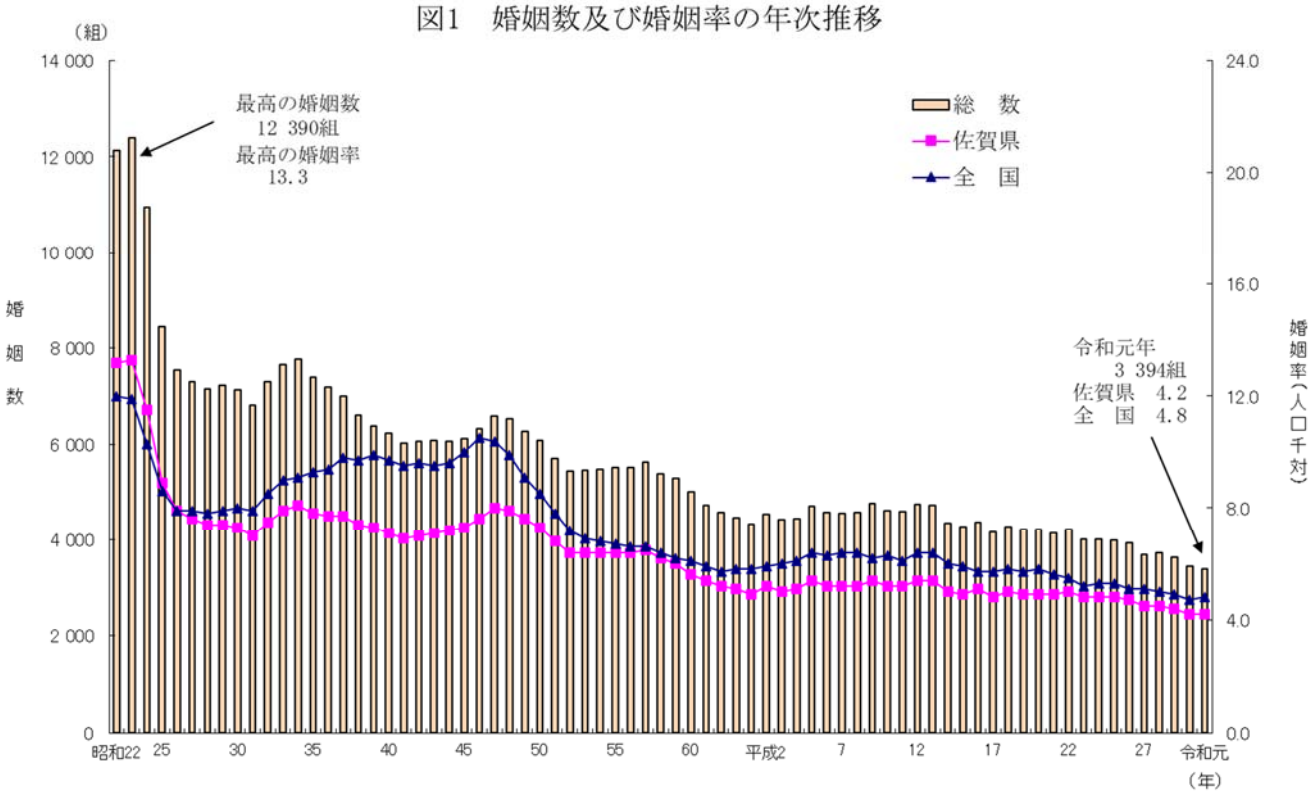
婚姻率の年次推移は、終戦直後の婚姻ブームのあと急速に低下し、昭和 30 年代の初めは上昇傾向にあったが、34 年を境にしてゆるやかに低下を続けた。

40 年代に入ると、戦後第 2 の婚姻ブームを反映して上昇を始めたが、47 年をピークに、多少の起伏はあるものの低下傾向で推移している。

表１　婚姻数と率の年次推移

年次	婚姻数	婚姻率(人口千対)	
		佐賀県	全　国
昭和　22　年	12 133	13.2	12.0
25	8 451	8.9	8.6
30	7 134	7.3	8.0
35	7 400	7.8	9.3
40	6 230	7.1	9.7
45	6 118	7.3	10.0
50	6 086	7.3	8.5
55	5 511	6.4	6.7
60	5 012	5.6	6.1
平成　2	4 539	5.2	5.9
7	4 550	5.2	6.4
12	4 749	5.4	6.4
17	4 155	4.8	5.7
22	4 210	5.0	5.5
27	3 692	4.5	5.1
28	3 726	4.5	5.0
29	3 639	4.4	4.9
30	3 449	4.2	4.7
令和　元　年	**3 394**	**4.2**	**4.8**

図1　婚姻数及び婚姻率の年次推移



2　結婚生活に入った年齢

令和元年に結婚生活に入り、届け出た人の平均初婚年齢は夫 30.4 歳、妻 29.0 歳で、夫も妻も前年より上昇した。

また、初婚夫妻の年齢別割合は、夫妻ともに 25～29 歳が最も多く、夫 37.1%、妻 39.7%となっている。

表２　平均初婚年齢および夫妻の年齢差の年次推移(各届出年に結婚生活に入り届け出たもの)

年次	佐賀県			全国		
	夫	妻	年齢差	夫	妻	年齢差
昭和25年	25.7 歳	23.0 歳	2.7 歳	25.9 歳	23.0 歳	2.9 歳
30	26.3	23.6	2.7	26.6	23.8	2.8
35	27.0	24.4	2.6	27.2	24.4	2.8
40	27.3	24.8	2.5	27.2	24.5	2.7
45	26.7	24.1	2.6	26.9	24.2	2.7
50	26.6	24.5	2.1	27.0	24.7	2.3
55	27.4	25.1	2.3	27.8	25.2	2.6
60	27.9	25.5	2.4	28.2	25.5	2.7
平成 2	28.4	25.9	2.5	28.4	25.9	2.5
7	28.4	26.3	2.1	28.5	26.3	2.2
12	28.0	26.5	1.5	28.8	27.0	1.8
17	29.0	27.4	1.5	29.8	28.0	1.8
22	29.6	28.2	1.4	30.5	28.8	1.7
27	30.2	28.9	1.3	31.1	29.4	1.7
28	30.2	28.8	1.4	31.1	29.4	1.7
29	29.9	28.6	1.3	31.1	29.4	1.7
30	30.2	28.9	1.3	31.1	29.4	1.7
令和 元年	**30.4**	**29.0**	**1.4**	**31.2**	**29.6**	**1.6**

注：同居を始めたときの年齢による。

表３　初婚夫妻の年齢階級別割合　(令和元年)

佐賀県

	初婚者数				令和元年に結婚生活に入り届け出たもの(再掲)			
	実数		割合		実数		割合	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
総数	2,714	2,789	100.0	100.0	2,313	2,374	100.0	100.0
20歳未満	55	82	2.0	2.9	38	60	1.6	2.5
20～24	524	641	19.3	23.0	402	494	17.4	20.8
25～29	1,007	1,108	37.1	39.7	861	962	37.2	40.5
30～34	605	567	22.3	20.3	538	506	23.3	21.3
35～39	296	246	10.9	8.8	276	225	11.9	9.5
40～44	137	107	5.0	3.8	124	98	5.4	4.1
45～49	55	25	2.0	0.9	44	19	1.9	0.8
50歳以上	34	12	1.3	0.4	30	10	1.3	0.4
不詳	1	1	-	-	-	-	-	-

注：同居を始めたときの年齢による。

3　離婚の動き

令和元年の本県の離婚数は 1,329 件で前年の 1,280 件より増加し、離婚率（人口千対）は 1.64 であった。

離婚率の年次推移を図 2 でみると、昭和 39 年までは低下、その後は多少の起伏を伴いながらも上昇を続けていたが 59 年をピークに低下した。その後、平成 2 年以降上昇に転じたが、平成 18 年以降再び減少傾向となった。

同居期間別（表 5）にみると、「5 年未満」が 417 件（離婚件数の 31.4%）で最も多く、次いで「5～10 年未満」の 271 件（同 20.4%）、「20 年以上」の 249 件（同 18.7%）となっている。

離婚件数を前年と比較すると、「5 年未満」「10～15 年未満」「不詳」以外は増加している。

表4　離婚数と率の年次推移

年次	離婚数	離婚率(人口千対)	
		佐賀県	全　国
昭和 22 年	1 031	1.12	1.02
25	943	1.00	1.01
30	805	0.83	0.84
35	665	0.71	0.74
40	641	0.74	0.79
45	658	0.79	0.93
50	751	0.90	1.07
55	859	0.99	1.22
60	1 106	1.24	1.39
平成 2 年	991	1.13	1.28
7	1 224	1.39	1.60
12	1 635	1.87	2.10
17	1 759	2.04	2.08
22	1 536	1.82	1.99
27	1 354	1.63	1.81
28	1 378	1.67	1.73
29	1 285	1.57	1.70
30	1 280	1.57	1.68
令和 元 年	**1 329**	**1.64**	**1.69**

図２　離婚数及び離婚率の年次推移

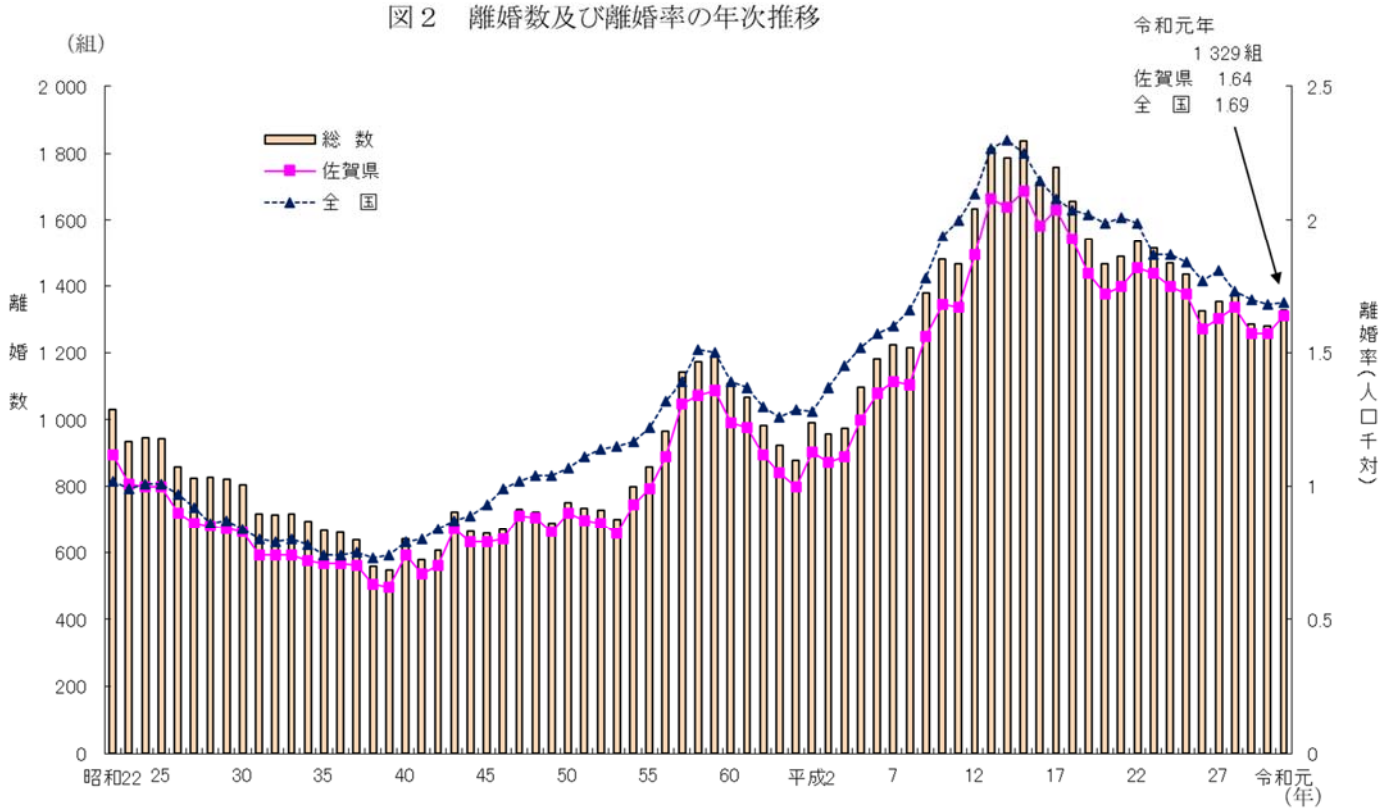


図３　同居期間別離婚数の年次推移（佐賀県）

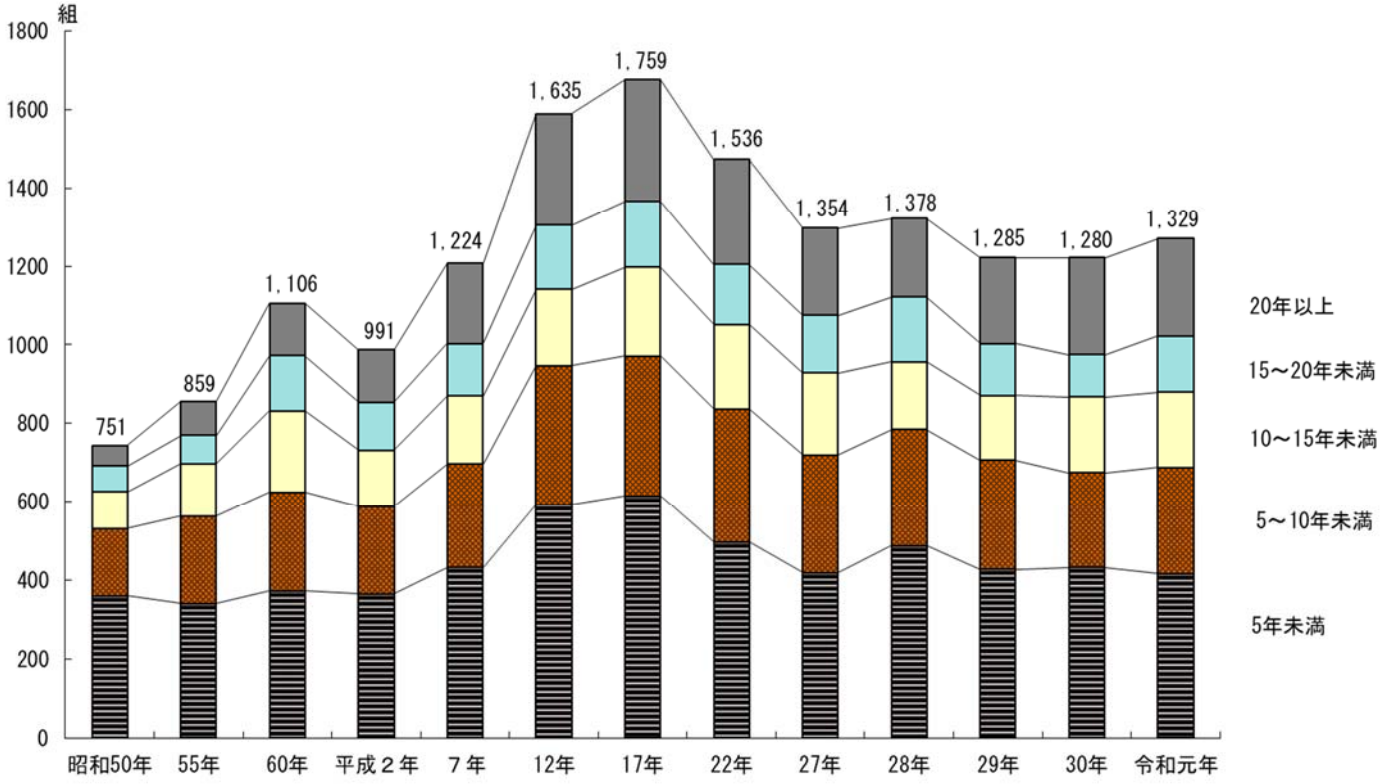


表５　同居期間別離婚数の年次推移

佐賀県

	昭和50年	55年	60年	平成２年	７年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和元年		
													件数	割 合 %	対前年 増減率%
総数	751	859	1 106	991	1 224	1 635	1 759	1 536	1 354	1 378	1 285	1 280	**1 329**	**100.0**	**3.8**
5年未満	361	341	373	365	433	592	614	497	419	487	428	432	**417**	**31.4**	**△ 3.5**
5 ～ 10	170	222	251	223	263	355	357	340	300	297	278	242	**271**	**20.4**	**12.0**
10 ～ 15	94	134	208	144	174	194	226	215	210	173	165	193	**192**	**14.4**	**△ 0.5**
15 ～ 20	67	73	140	122	133	164	169	153	146	165	132	108	**142**	**10.7**	**31.5**
20年以上	52	86	133	133	204	284	310	268	222	200	218	246	**249**	**18.7**	**1.2**
不詳	7	3	1	4	17	46	83	63	57	56	64	59	**58**	**4.4**	**△ 1.7**

注：総数には同居期間不詳を含む。

付表　　人口動態月別発生率　　佐賀県

	年次	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出生	昭和 45 年	15.8	17.8	16.4	15.7	15.8	15.1	14.3	16.5	15.2	15.1	14.0	14.0	15.9
人口千対	50	15.6	16.9	17.5	16.0	16.3	15.0	15.4	15.9	15.3	15.8	14.3	14.2	15.2
	55	14.4	14.2	15.6	14.1	15.1	14.0	14.2	15.7	14.9	14.8	13.3	13.1	14.1
	60	13.3	13.6	13.0	12.6	12.7	13.6	13.0	14.7	13.4	14.0	13.0	12.8	13.3
	平成 2 年	10.9	10.3	11.0	10.6	10.7	11.6	11.3	11.5	11.1	11.2	10.9	10.0	10.8
	7	9.9	10.1	9.4	9.4	9.4	10.4	10.1	10.3	10.7	10.5	9.1	9.1	10.1
	12	10.0	10.3	9.9	10.7	9.9	9.9	9.6	9.6	9.9	10.7	10.5	9.4	10.1
	17	8.7	8.9	8.8	9.1	8.5	8.4	9.3	9.1	8.0	9.2	8.3	8.2	8.6
	22	9.0	9.2	8.8	8.6	8.5	9.3	8.9	8.9	9.0	9.5	9.4	9.4	8.8
	27	8.5	8.4	8.8	8.3	8.4	8.7	8.7	8.5	8.2	9.1	8.5	8.1	8.4
	28	8.3	8.3	8.3	8.3	8.9	8.2	8.8	7.9	8.2	9.0	7.7	7.4	8.1
	29	8.2	8.0	8.6	8.8	8.1	7.8	8.5	7.8	8.1	8.3	8.2	8.0	8.6
	30	8.0	8.2	8.0	7.6	8.4	8.2	8.1	8.2	8.4	7.7	8.1	7.9	7.7
	令和 元 年	7.7	8.2	7.5	7.1	6.9	7.6	7.5	7.6	8.5	8.1	7.8	8.3	7.5
死亡	昭和 45 年	8.5	13.3	10.7	9.1	8.2	7.1	6.7	7.5	7.1	6.9	8.0	8.4	9.6
人口千対	50	8.0	9.0	8.3	8.5	8.5	7.9	6.5	8.1	7.4	7.0	7.9	8.1	9.3
	55	8.0	9.2	10.7	8.3	7.9	7.2	6.9	6.6	6.9	6.9	7.8	8.2	8.9
	60	7.7	8.9	8.7	8.1	7.6	6.9	6.9	6.4	6.9	6.9	7.4	8.1	10.2
	平成 2 年	8.3	9.8	9.1	8.9	8.2	7.7	7.2	7.4	8.0	8.1	7.8	8.6	8.7
	7	9.0	13.2	10.5	10.0	8.4	8.2	7.7	7.7	7.8	7.6	8.2	9.2	9.6
	12	9.0	11.4	11.4	9.8	9.7	8.2	7.9	7.8	7.8	7.5	8.1	9.2	9.7
	17	9.9	11.3	11.3	11.6	9.6	9.3	8.5	8.6	9.1	9.1	8.9	10.4	11.2
	22	10.9	12.5	11.4	11.0	11.0	11.2	9.9	9.4	9.8	10.1	10.4	11.9	12.0
	27	11.7	15.3	12.8	12.9	11.6	11.2	10.7	10.2	10.4	10.5	11.1	12.0	12.0
	28	11.8	13.4	12.9	12.5	11.3	10.9	10.9	10.0	11.3	10.8	11.1	12.9	13.5
	29	12.2	14.5	13.8	13.3	11.7	11.4	10.7	11.0	11.1	11.2	12.0	12.6	13.0
	30	12.4	14.6	16.0	13.2	12.1	11.2	11.1	11.0	11.2	11.3	12.1	13.1	12.7
	令和 元 年	12.3	14.6	14.0	12.0	12.2	12.3	11.3	11.0	11.9	11.1	12.1	12.2	13.4
乳児死亡	昭和 45 年	15.2	24.4	11.0	14.3	18.6	13.0	14.7	13.6	10.1	12.0	17.0	10.0	21.1
出生千対	50	10.6	8.6	6.6	13.7	5.3	14.7	9.8	13.1	10.6	11.0	9.8	10.2	9.9
	55	6.9	9.6	4.1	4.6	5.7	7.4	4.8	10.2	6.5	7.7	9.4	5.8	4.7
	60	6.0	4.9	6.6	7.9	6.2	8.9	5.1	7.0	7.6	3.1	4.0	5.2	5.0
	平成 2 年	4.6	5.0	1.4	3.7	1.3	3.7	5.1	4.9	3.7	1.3	7.4	10.2	7.4
	7	3.7	8.1	3.0	8.1	-	6.7	7.0	1.3	2.7	-	2.7	2.8	1.3
	12	2.9	4.1	1.4	1.4	7.0	5.4	1.4	1.4	1.4	4.2	1.4	1.4	4.1
	17	1.7	1.6	1.7	1.6	1.6	-	3.2	1.6	3.1	-	1.6	1.6	3.1
	22	2.4	1.5	3.4	1.5	1.6	4.6	1.6	1.5	4.6	-	3.1	4.8	-
	27	1.0	-	-	-	1.7	3.3	-	1.7	1.7	-	-	3.4	-
	28	1.9	-	3.7	3.5	-	3.5	-	1.7	1.7	1.8	1.7	-	5.2
	29	1.6	3.5	1.9	1.7	1.8	3.5	-	3.5	-	-	1.7	1.8	-
	30	0.9	1.8	4.0	-	1.9	-	-	-	-	1.9	-	-	1.8
	令和 元 年	2.4	5.7	4.2	3.8	-	-	2.0	-	3.8	3.9	-	2.0	3.8
死産	昭和 45 年	75.9	71.2	90.7	77.5	85.1	82.6	79.4	75.5	70.1	78.5	67.0	75.9	57.3
出産千対	50	57.7	52.2	58.6	60.2	64.3	62.3	38.9	67.1	67.1	61.3	56.6	54.2	48.5
	55	51.0	68.3	54.1	54.9	47.1	56.3	46.3	59.4	48.7	55.8	47.4	40.2	46.1
	60	51.2	47.9	57.1	53.3	63.1	72.8	47.6	44.5	44.9	38.1	51.0	46.2	47.1
	平成 2 年	49.2	56.5	57.3	48.3	44.8	45.4	38.0	45.8	52.9	60.7	51.6	48.8	40.5
	7	40.5	29.8	44.4	59.5	33.4	41.4	33.4	44.0	42.7	25.4	41.4	49.5	40.1
	12	40.7	32.4	36.0	51.8	36.1	44.0	54.9	37.6	35.0	40.1	36.3	41.5	42.7
	17	32.1	31.3	38.1	37.4	38.1	20.6	19.3	33.4	31.4	35.3	27.3	36.3	36.8
	22	29.6	20.7	35.4	44.7	31.2	29.1	34.5	34.6	24.1	25.0	32.8	16.6	27.8
	27	22.6	19.8	17.5	34.8	20.5	26.9	29.3	13.1	18.8	31.2	19.6	14.3	23.1
	28	19.4	10.3	21.6	23.6	11.5	18.8	21.3	9.0	23.9	27.2	18.2	23.3	24.3
	29	21.8	21.1	25.4	28.4	19.9	26.8	15.5	21.5	29.4	12.4	20.7	18.2	21.2
	30	21.3	8.7	23.5	29.6	20.9	17.4	19.9	10.5	25.3	26.6	29.5	20.4	23.9
	令和 元 年	19.7	12.3	23.1	18.0	31.8	15.2	25.5	13.2	8.5	23.5	32.6	14.4	20.9
婚姻	昭和 45 年	7.3	5.6	7.4	10.1	11.6	9.9	7.2	3.9	3.2	3.4	8.7	7.9	8.6
人口千対	50	7.3	5.6	7.7	10.2	11.6	11.4	5.9	3.6	2.1	3.0	9.2	9.0	8.0
	55	6.4	4.9	6.8	8.6	9.1	10.2	5.4	2.6	1.8	3.4	7.4	8.3	8.0
	60	5.6	3.3	5.4	8.1	8.1	9.0	4.9	3.0	1.8	4.2	7.2	7.5	6.0
	平成 2 年	5.2	3.1	4.7	7.0	6.9	7.4	6.0	3.2	1.9	3.1	6.6	6.7	5.4
	7	5.2	3.6	4.1	6.6	5.6	6.9	5.9	4.4	2.6	4.0	6.0	6.8	5.3
	12	5.4	5.3	5.5	6.7	5.4	5.9	5.5	4.9	3.2	5.1	5.5	6.3	6.2
	17	4.8	3.7	4.6	6.2	5.0	5.4	4.0	4.3	3.6	4.4	5.2	6.2	5.1
	22	5.0	4.2	6.1	5.4	5.0	5.0	4.2	4.6	4.1	4.5	5.7	5.8	5.3
	27	4.5	3.9	4.2	7.0	3.9	4.6	3.6	4.2	4.1	3.6	4.2	5.4	4.8
	28	4.5	3.8	4.7	6.0	4.7	4.2	3.8	5.0	4.2	4.1	3.9	5.2	4.7
	29	4.4	3.9	4.8	5.7	4.2	4.1	4.1	5.1	3.4	3.7	3.8	5.4	5.1
	30	4.2	3.7	4.7	5.5	4.7	3.8	3.4	4.3	3.7	4.6	3.6	5.0	4.0
	令和 元 年	4.2	3.3	4.3	4.6	3.0	8.3	3.4	3.5	3.4	3.9	2.9	6.2	3.6
離婚	昭和 45 年	0.79	0.62	0.74	0.78	0.96	0.66	0.84	0.77	0.80	0.88	0.91	0.70	0.77
人口千対	50	0.90	0.93	1.01	0.89	1.00	0.94	0.89	0.93	0.82	0.95	0.86	0.79	0.83
	55	0.99	0.81	0.98	0.93	1.31	1.07	0.82	1.04	0.90	1.14	1.23	0.88	1.13
	60	1.24	0.94	1.38	1.33	1.12	1.21	1.09	1.35	1.34	1.20	1.39	1.19	1.37
	平成 2 年	1.13	0.98	1.04	1.69	1.18	1.25	1.19	1.28	0.93	0.99	0.99	0.96	1.07
	7	1.39	1.49	1.46	1.55	1.38	1.48	1.27	1.48	1.23	1.28	1.37	1.38	1.27
	12	1.87	1.36	2.12	1.86	2.07	2.13	1.79	2.00	1.69	1.90	1.92	1.62	2.00
	17	2.04	2.05	1.83	2.10	2.10	1.94	2.10	1.92	2.21	2.02	1.95	2.03	2.20
	22	1.82	1.82	2.26	2.25	1.98	1.47	1.78	1.57	1.91	1.94	1.61	1.68	1.53
	27	1.63	1.36	1.84	2.19	1.56	1.58	1.69	1.87	1.38	1.54	1.52	1.38	1.70
	28	1.67	1.66	1.62	2.35	1.76	1.60	1.45	1.40	1.56	1.58	1.59	1.60	1.86
	29	1.57	1.21	1.64	2.04	1.89	1.35	1.47	1.44	1.78	1.71	1.61	1.35	1.35
	30	1.57	1.40	1.73	2.10	1.66	1.59	1.50	1.38	1.49	1.36	1.48	1.59	1.62
	令和 元 年	1.64	1.82	1.61	2.21	1.91	1.57	1.84	1.56	1.25	1.67	1.33	1.45	1.52